

独立行政法人国立青年の家の平成14事業年度に係る業務の実績に関する評価[全体評価]

評価項目	評価の結果
○ 事業活動	・主催事業について 主催事業の企画・実施に当たっては、法人の使命や目標に照らし、事業の必要性を確認し、青年の家が持つすべての教育機能を活用し、各青年の家の実情や立地条件に基づき、環境学習やひきこもりなどの今日的な青年教育の課題に対応した多様な事業を実施して成果を上げ、報告書に加えてホームページを活用して広く国民に情報提供したことは評価できます。また、13の青年の家が統合したメリットを生かした事業展開をするために策定した法人の統一テーマ「環境」「ボランティア」について、効果的な実施に向けて検討を進めていることを評価し、その成果に期待します。 ・受入れ事業について 職員の意識改革が進み、指導・助言態勢の充実、利用者のニーズの把握と要望への迅速な対応などサービスの向上が図られ、利用者が少なかった期間の稼働数を大きく伸ばし、156万人を超える利用者を確保したことは高く評価できます。対象別に作成した広報資料の配布、広報重点地域を絞り込んだ直接訪問での広報活動に加えて、ホームページを活用して空室状況や活動プログラム等の情報提供など新たな広報活動に取り組んでいることも評価できますが、今後更に、ホームページを活用した広報活動の充実を望みます。
○ 業務運営	・施設の連携体制について 法人本部に企画・評価課を設置したことによる事業戦略・内部評価体制の強化、法人本部主導による情報の共有化、業務の改善に向けた取組、各種システムの改善などを通して、法人本部と各青年の家の連携体制、業務の合理化を推進したことは評価できます。全国に分散した13の青年の家が統合したメリットを生かした業務運営を行うため、連携体制の強化と組織の一元化を更に進めることが望まれます。 ・職員の意識改革について コスト意識の浸透や利用者に対する職員のサービス・ホスピタリティの醸成をしたことは素晴らしいことと評価します。
1 財務	・業務の効率化について 職員の節減意識の向上を図り、利用者数が大幅に増加する中、利用者サービスの低下を招くことがないように配慮しながら、光熱水料の7.4%節減、契約方法・外部委託の見直し、物品調達方法の改善等を実施した結果、2.2%の業務の効率化を達成したことは高く評価できます。今後、光熱水料については、電気や水道等の使用量にも注目した努力も望まれます。また、外部委託については、委託の必要性、人件費とコスト比較などの見直しを行い、効率的な業務運営や業務の質的向上を図ることができるよう引き続き努めていくことが望まれます。 収入の確保について、自己収入、外部資金ともに努力の成果が表れていますが、更に前向きに努力することが望まれます。
2 人事	・人事管理について 円滑な事業の推進と組織の活性化のため、プロパー専門職員等3人の採用と15年度採用に向けた準備、新たな人事交流の実施など多様な人材確保の積極的な取組は高く評価できますが、公募の方法などの工夫が更に望まれます。
3 その他	・施設整備について 限られた予算の中で効率的な施設整備に努めていますが、今後、特に自然環境に配慮しながら、施設の老朽化や時代のニーズに対応するための施設整備を進めることが望まれるとともに、身障者等の利用への配慮や受動喫煙防止等利用者の健康に留意した施設運営に一層努力することを期待します。

事業活動全体、業務運営（財務、人事等）など法人の業務全体にわたる横断的な観点から、項目別評価の結果を踏まえつつ、法人の業務実績について記述式により評価する。

評価項目	評価の結果
◎ 総 評	今日、青年の価値観が多様となり、青年教育に対する課題もまた多様となっていく中で事業活動の方向性を定めることも大変難しいことではありますが、法人化したことで全国に分散した13の青年の家が連携体制を整えつつ、青年教育の課題に積極的に取り組んでいます。 法人2年目になり理事長のリーダーシップのもとに、法人本部に企画・評価課を設置して内部評価体制を強化し、更に外部有識者による評価を行ったことにより、法人の課題を明らかにして意欲的に業務運営の改善に努めたことは評価できます。 職員の意識改革を最優先の課題として職員研修を積極的に行い、サービスの向上、事業の効果的な実施、情報の共有化に取り組み、稼働数を大幅に伸ばす中で、業務の効率化・光熱水料の節減等の実績を挙げたことは高く評価することができます。 ひきこもりや凶悪犯罪は増加傾向にあり、青少年をめぐる様々な問題が深刻な社会問題となっており、次代を担う青年の健全育成が喫緊な政策課題となり、思いやりの心や他者とのかかわる能力、自主性・社会性などの豊かな人間性を育む必要性が指摘されています。 こうしたことから、現代の青少年をとりまく様々な諸課題を解決するに当たり、青年教育の中核である国立青年の家の重要性はますます高まっており、今後、国立青年の家は、次代を担う青年の健全な育成を図るという使命を果たしていくため、13の青年の家のネットワークを生かし、青年の家が持つ教育機能を遺憾なく発揮し、「体験」と「交流」を通して青年に「発見」と「感動」を与えるというビジョンの実現に向けて、法人が一体となって努力することを強く期待します。

項目別評価及び上記の横断的な評価を総合し、法人の活動全体についての総評を記述する。

独立行政法人国立青年の家の平成14事業年度に係る業務の実績に関する評価[項目別評価]

○業務運営の効率化に関する事項

中期計画の各項目	評価項目	評価基準			評価に係る実績	評 定	
	指 標	A	B	C		A B C 評 定	留 意 事 項
I 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置							
1 全国に分散した施設を機能的に統合して連携体制を整備し、事務の集中管理による簡素化・効率化を図る。	施設の連携体制の状況	・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			(1)法人本部と各施設の連携体制の状況 法人本部の主導により、前年度の実績を踏まえ、法人本部と各青年の家が一体となって、運営体制の強化、情報の共有化、プロジェクトでの諸課題への対応などに取り組み、連携体制を推進した。 ①運営体制の強化 法人としての事業戦略、内部評価体制の強化を図るため、本部に「企画・評価課」を設置した。各青年の家の事業の見直し・改善を進め、平成15年度の法人としての統一テーマの策定を行った。また、法人全体の内部評価の実施、評価結果を基にした業務の改善を行い、各青年の家にも事業面を強化する波及効果が現れた。 ②情報の共有化 情報公開に対応した文書の管理に関する規程の制定や職員の給与に関する規程の見直し等、諸規則の制定・整備を行ったほか、通知等により運営方針の趣旨徹底を図った。更に、青年の家の運営方針について各施設の共通理解を図るため、所長会議を3回、庶務課長会議及び事業課長会議をそれぞれ2回開催した。各会議では、本部からの説明のほか、各施設の運営状況や課題についての協議を行った。 ③プロジェクトでの諸課題への対応 所長プロジェクト及び庶務課長による「危機管理プロジェクト」を設置した。 ア 所長プロジェクト 検討事項：「受入れ事業の改善」「管理運営の改善」「主催事業・評価」 成果の活用：業務の改善に反映 イ 庶務課長による「危機管理プロジェクト」 検討事項：「人身事故関係」「防災関係」「衛生管理」 成果の活用：「危機管理マニュアル」を作成、各施設で活用 (2)事務の集中管理による簡素化・合理化の状況 ①人事給与システム 昨年度と同様に、履歴等の人事情報を本部で集中管理し、統一した人事管理を行っている。また、職員給与規程の改正にも対応し、引き続き、法人本部で一括計算を行い、事務の簡素化・合理化及び一元化を図っている。 ②会計システム システム内のデータに関連性を持たせることにより、データの信頼性が増し、より信頼性の高いシステムとなった。また、固定資産システムにおいても、データの管理方法を変えたことにより、より正確なオペレーションが可能となった。 ③利用統計システム（Yネット） 各施設職員のシステムに対する理解度も向上し、全施設のすべての利用団体をデータベース化している。これによって精度の高いデータの出力が可能になり、広報戦略等において利用者の新規開拓、利用促進に貢献している。	A	○法人本部に企画・評価課を設置し、法人としての事業戦略、内部評価体制を強化したり、法人本部主導による情報の共有化、業務の改善に向けた取組、各種システムの改善などを通して、法人本部と各青年の家の連携体制、業務の合理化を推進したことは評価できます。 ○全国に分散した13の青年の家が統合したメリットを生かした業務運営を行うため、連携体制の強化と組織の一元化を更に進めることが望まれます。
	事務の集中管理による簡素化・合理化状況						

A：中期計画を十分に履行し、中期目標に向かって着実に成果を上げている。
B：中期計画をほぼ履行し、中期目標に向かって概ね成果を上げている。
C：中期計画を十分には履行しておらず、中期目標達成のためには業務の改善が必要。

2 光熱水料の節減、外部委託、情報化、調達方法、支払窓口の一本化等の見直しを進める。	業務の効率化状況	・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。																																						
	①光熱水料の節減状況		(1) 光熱水料の節減実績 光熱水料の節減対策としては、青少年教育施設としての役割を踏まえ、利用団体の学習活動や生活等に支障が生じないよう、また、利用者サービスの低下を招くことがないように配慮しつつ、職員の節減意識の向上、設備等の改善、電力契約の変更、利用者への協力依頼などに努め、光熱水料の節減を図った。 <table><tr><th>区 分</th><th>13年度実績額：A</th><th>14年度実績額：B</th><th>節減額(A－B：C)</th><th>節減率 C／A</th></tr><tr><td>電気料</td><td>159,549,695円</td><td>144,690,371円</td><td>14,859,324円</td><td>9.3%</td></tr><tr><td>ガス料</td><td>3,220,811円</td><td>3,536,037円</td><td>△ 315,226円</td><td>△ 9.8%</td></tr><tr><td>水道料</td><td>41,029,253円</td><td>36,311,586円</td><td>4,717,667円</td><td>11.5%</td></tr><tr><td>燃 料</td><td>86,800,835円</td><td>84,691,593円</td><td>2,109,242円</td><td>2.4%</td></tr><tr><td>計</td><td>290,600,594円</td><td>269,229,587円</td><td>21,371,007円</td><td>7.4%</td></tr></table> (2) 光熱水料の節減努力 光熱水料は、各施設の気象条件に大きく左右されるが、冷暖房の設定温度の調整並びに節減機器を導入するなど、節減に努めた。 また、利用者サービスの低下を招くことがないように配慮しつつ以下の措置を講じた。 ・利用団体への節減の養成 ・職員の節減意識の啓蒙 ・館内の冷暖房温度の設定温度調整とこまめな調節 ・使用実態にあった契約に変更 ・トイレにセンサー式自動洗浄装置の設置 ・漏水点検の実施 ・ボイラー系統を考慮した部屋割と効率的なボイラー運転の実施 ・ハイブリッド車の導入 <table><tr><td>平成13年度</td><td>290,600,594円</td><td>(稼働数 1,507,532人)</td></tr><tr><td>平成14年度</td><td>269,229,587円</td><td>(稼働数 1,564,376人)</td></tr></table> 21,371,007円節減 稼働数 56,844人増 節減率・・・7.4%（節減目標：1%） $\frac{(13年度光熱水料実績額 - 14年度光熱水料実績額)}{13年度光熱水料実績額} \times 100$ $\frac{(290,600,594円 - 269,229,587円)}{290,600,594円} \times 100 = 7.4\%$	区 分	13年度実績額：A	14年度実績額：B	節減額(A－B：C)	節減率 C／A	電気料	159,549,695円	144,690,371円	14,859,324円	9.3%	ガス料	3,220,811円	3,536,037円	△ 315,226円	△ 9.8%	水道料	41,029,253円	36,311,586円	4,717,667円	11.5%	燃 料	86,800,835円	84,691,593円	2,109,242円	2.4%	計	290,600,594円	269,229,587円	21,371,007円	7.4%	平成13年度	290,600,594円	(稼働数 1,507,532人)	平成14年度	269,229,587円	(稼働数 1,564,376人)	
区 分	13年度実績額：A	14年度実績額：B	節減額(A－B：C)	節減率 C／A																																				
電気料	159,549,695円	144,690,371円	14,859,324円	9.3%																																				
ガス料	3,220,811円	3,536,037円	△ 315,226円	△ 9.8%																																				
水道料	41,029,253円	36,311,586円	4,717,667円	11.5%																																				
燃 料	86,800,835円	84,691,593円	2,109,242円	2.4%																																				
計	290,600,594円	269,229,587円	21,371,007円	7.4%																																				
平成13年度	290,600,594円	(稼働数 1,507,532人)																																						
平成14年度	269,229,587円	(稼働数 1,564,376人)																																						
	光熱水料の節減率 ★目標：1% (前年度光熱水料－当該年度光熱水料)／前年度光熱水料 注) 利用者数の増減を勘案する	1.5%以上 1.0%以上 1.5%未満 1.0%未満		A ○職員の節減意識の向上を図り、利用者サービスの低下を招くことがないように配慮しながら、光熱水料の節減、契約方法・外部委託の見直し、物品調達方法の改善などに努め、2.2%の業務の効率化を図ったことは評価できます。 ○光熱水料については、稼働数が56,844人増加（前年比3.8%増）する中で、光熱水料を7.4%節減したことは高く評価できますが、今後は、電気や水道等の使用量にも注目した努力も望まれます。 ○外部委託については、委託の必要性、仕様書の再確認、人件費とのコスト比較などの見直しを行ったことは評価できますが、効率的な業務運営や業務の質的向上を図ることができるよう、引き続き努めていくことが望まれます。																																				

②外部委託の見直し状況	(1) 外部委託すべきかどうかの業務の見直し状況 外部委託について、その遂行に際し法的に定められている業務、専門的な知識を有する者が行う業務も含め、各施設においてこれまで実施してきたすべての業務について次の内容について見直しを行い、新規業務についても同様の確認を行い経済性・必要性について検討した。 ①委託理由の再確認 ②予定価格・仕様書の再確認 ③人件費とのコスト比較 (2) 各青年の家の実情に即した外部委託への状況 衛生管理関係、安全管理関係、サービス・案内関係、保守管理関係などについて、すべての業務について上記の観点で見直し・検討を行い、各青年の家の立地条件や地域の実情に即して外部委託の変更を行った。 ①既存の委託業務を継続した業務：135業務 ②新規に外部委託を実施した業務：6業務 ア 浴室清掃業務（浴室の衛生管理の徹底）：1件 イ 警備業務（利用者の安全確保）：3件 ウ 昇降機保守（法令に定める利用者の安全確保）：1件 エ 所内LAN保守（IT化の推進）：1件 ③外部委託を中止した業務：2業務 ア 草木刈払い作業（地域のボランティアで対応） イ ゲレンデ管理（地域のボランティアで対応） ④その他 外部委託内容の仕様変更や利用者へのゴミの持ち帰りの依頼、職員による除草作業などにより、外部委託経費の削減にも努めた。
③事務の情報化の状況	(1) 事務の情報化への取組 ①事務の情報化システムの活用 法人化に合わせて導入したネットワークシステムを活用して、法人本部・各青年の家間の情報の交換を行っている。不法アクセス、ウイルス等の侵入を防ぐシステムにより、現在のところ被害は出ていない。 平成15年3月現在、このネットワークシステム上で稼働しているシステムは会計システム・人事給与システム・利用統計システム（Yネット）で、確実性・効率性を向上させるように改善を行った。 ア 会計システム：システムの有効活用、会計データの信用性の向上のため、担当職員研修会を実施 イ 人事給与システム：職員給与規程の改正に対応してシステムの改良を実施 ウ 利用統計システム：全13青年の家の利用団体情報をデータベース化し、広報戦略等に活用 ②文書のデータベース化 情報公開に対応した文書の管理について、過去の文書の確認、適正な保管場所の確保など文書の管理業務の整備を行い、法人が保有する文書のデータベース化を実施した。 (2) ペーパーレス化の進捗状況 法人内や外部との諸連絡や事務連絡について、電子メールの積極的な活用、各種文書ファイルの共有化の推進、両面印刷、両面コピー、ミスコピーの裏面活用を行うことにより、紙類の使用枚数の節減に努めた。ホームページを活用した各種案内等の掲載により、利用者側からのダウンロードを可能とし、各種パンフレットの印刷の抑制を実施した。 また、職員が共用する掲示板を活用することで、職員のコミュニケーションの場・意識啓蒙の場としても効果的で、ペーパーレス化に役立った。

④物品の調達方法の改善状況 注)「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」への対応に配慮する		独立行政法人となり、国の会計事務の簡素化の流れを意識しながら随意契約における金額の幅を広げ、契約の方法を簡略化するなどの契約制度を導入し、業務の効率化、経費の節減の観点から、次のような物品調達方法の改善を行った。 (1) 予定価格が低廉であっても業者間の競争により安価な調達に努めた。 (2) 従来の国の契約制度では販売に応じなかった量販店にも説得をし、競争に参加させることで、より低廉で良質な物品の調達に努めた。 (3) 青年の家は比較的遠隔地に立地しているため、計画的な調達により納期を長く設定することによって市内（遠方）の業者も競争に参加できるよう配慮した。 (4) 恒常的に必要な物品は、適正な必要量を把握し、まとめて購入した。 (5) 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（平成12年法律第100号）に適合した物品の調達に努め、購入実績は100%を達成した。	
⑤1%の業務の効率化 ★目標：1% (運営費交付金予算額÷0.99－運営費交付金決算額)÷(運営費交付金予算額÷0.99) 注)新規・拡充分を除く 注)目的積立金への積立分を除く	1.5%以上 1.0%以上 1.0%未満 1.5%未満 ※文部科学省独立行政法人評価委員会総会が示す統一的な考え方	光熱水料の節減、ペーパーレス化、物品調達方法の改善など、法人一体となった業務運営の効率化を図った結果、14年度は2.2%の業務の効率化を図ることができた。 ○14年度実績：2.2%（目標：1%） (運営費交付金予算額÷0.99－運営費交付金決算額)÷(運営費交付金予算額÷0.99) (4,680,336千円÷0.99－4,621,837千円)÷(4,680,336千円÷0.99)	

中 期 計 画 の 各 項 目	評 価 項 目	評 価 基 準			評 価 に 係 る 実 績	評 定	
	指 標	A	B	C		A B C 評 定	留 意 事 項
II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置							
1 青年の団体宿泊訓練に関する事項 ・主催事業 主催事業を計画するに当たり、①継続事業においては、前回の事業の成果を踏まえ、継続していく必要性や事業のねらいを明確にする、②新規事業においては、地域の実情に照らし、現代的課題とは何かについての確な情報を収集、調査分析を行い、その展開方法について各分野の専門家の意見を取り入れるなど、もともと成果が上がるような計画を策定する。 また、計画策定に当たり、過去の同種の事業の参加人数や指導者の許容範囲を勘案しながら適正な事業規模とする。 事業終了後において、当初の目的が達成されたか、報告書を作成し、結果や評価等の調査研究を行う。 以上のことから中期目標期間中に、以下の主催事業を計画的に実施する。 (1) 各施設の実情や立地条件等に基づいた、独自性を発揮した事業の企画、適切な目的・内容・方法・対象・時期などを踏まえた事業の実施、公立青年の家等に対する事業内容・運営手法などの成果の普及、事業評価に基づく課題の改善を促す。 また、野外活動、スポーツ活動、文化活動、伝統文化活動、ボランティア活動、国際交流活動など、適切な手法で事業の目的を達成するよう促す。 なお、事業の効果をより高めるために、施設設備、施設周辺の自然環境や社会環境、関係機関等との連携、地域の課題への対応などにも留意する。 (2) 平成14年度から実施の完全学校週5日制に対応するため、これまでの学校週5日制対応事業の成果をまとめ、平成14年度以降の学校週5日制対応事業について、その在り方を検討し、検討結果に沿って実施し、その成果を公立青年の家等に普及する。 (3) 調査研究・開発体制を整え、新しい活動プログラムの開発・実施・普及計画を立て、新規プログラムを開発し、公立青年の家等に普及する。 (4) 主催事業参加者から高い評価が得られるよう、各施設において事業の企画、参加者への対応等が適切に行われるよう促す。	主催事業の実施状況	・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	(主催事業のねらい) 青年の家の使命である「青年の健全育成」を図るため、青年の家が持つすべての教育機能を活用して、青年に「体験」と「交流」を通して「発見」と「感動」を与え、次代を担う青年の健全育成に寄与する。 (主催事業の進め方) 事業の実施に当たっては、年度計画に従って効果的な事業運営を行うため、各施設に「主催事業の企画・推進体制」を整備し、下記の要領で調査・立案、計画、実施、評価を行い、主催事業の質の向上を図った。 (1) 調査・立案：①課題の洗い出し、②ニーズの把握、③ねらいの明確化、④推進体制の整備、⑤予算の確保、⑥評価方法の確立 (2) 計画：①運営計画・広報計画の策定、②健康・安全対策、③実地調査 (3) 実施：①関係機関との連携、②講師との連携、③状況に応じた対応、④ボランティアの活用 (4) 評価：①成果の分析・とりまとめ、②課題の洗い出し (主催事業の評価の視点) (1) 企画・立案に関する評価 ①企画・立案体制及び手続き、②事業の必要性・ねらい、③ニーズの把握状況、④プログラムの計画性 (2) 実施に関する評価 ①ねらいの周知状況、②プログラム内容の妥当性、③関係機関等との連携状況、④学習環境の妥当性、⑤健康・安全面での対応状況、⑥広報の内容・方法の効果 (3) 事業実施及びねらいの達成度に関する評価 ①参加者の評価・満足度、②関係機関・講師等の評価、③職員の評価（成果と課題）	A	○主催事業の企画・実施に当たっては、法人の使命や目標に照らし、事業の必要性を確認し、さらに事業の進め方や評価の視点を明らかにして、青年の家が持つすべての教育機能を活用し、各青年の家の実情や立地条件に基づき、環境学習やひきこもりなどの今日的な青年教育の課題に対応した多様な事業を実施して成果を上げています。 ○全国に分散した13の青年の家が統合したメリットを生かした事業展開をするため、法人の統一テーマを「環境」「ボランティア」として、効果的な実施に向けて検討を進めていることを評価し、その成果に期待しています。		
①現代的課題、今日的な青年教育に関する事業への取組状況			青年教育の中心的な拠点として、青年教育の現代的課題や今日的な青年教育の課題である環境学習・国際交流・科学離れ・自然体験などについて、各青年の家の実情や立地条件、地域の課題等を踏まえて、独自性を発揮した先導的・広域的な主催事業を次のとおり117事業（新規：19事業、継続：98事業）を実施した。募集人数64,105人に対して74,442人が参加した。			○主催事業やプログラム開発、調査研究等の成果を報告書等にまとめ、公立青年の家等へ普及することに加えて、ホームページを活用して広く国民に情報提供したことは評価できますが、ホームページを活用した普及について、更に充実させることを望みます。	
アンケート調査による参加者の満足度 ★目標：80%以上	90%以上	80%以上 90%未満	80%未満		96.8%		

②学校週5日制対応事業についての取組状況				学校週5日制の完全実施に伴ない、これまでの学校週5日制対応事業の成果をまとめ、平成14年度以降の事業の在り方について検討し、学校外活動支援の一環として、自然体験活動や勤労奉仕体験の場を提供するため、様々な事業を展開した。 高校生や中学生、小学生、更に家族を対象に、次のような18事業（新規：6事業、継続：12事業）を実施し、青年が企画・運営スタッフとして参画できるような仕掛けを行い、異年齢集団での活動できる機会を設定した。募集人数2,110人に対して1,963人が参加した。 <table><tr><th>事業内容</th><th>事業数</th><th>参加者数</th></tr><tr><td>自然体験活動</td><td>7</td><td>974人</td></tr><tr><td>ボランティア活動</td><td>3</td><td>145人</td></tr><tr><td>スポーツ活動</td><td>4</td><td>298人</td></tr><tr><td>文化活動</td><td>2</td><td>325人</td></tr><tr><td>創作活動</td><td>1</td><td>41人</td></tr><tr><td>その他</td><td>1</td><td>180人</td></tr></table> 詳細については、別添資料P22～24参照 継続事業については、事業の必要性等を検討し、事業の廃止や統合を行い、2事業を廃止し、6事業を新規に立上げ、時代のニーズに対応した事業展開を行った。	事業内容	事業数	参加者数	自然体験活動	7	974人	ボランティア活動	3	145人	スポーツ活動	4	298人	文化活動	2	325人	創作活動	1	41人	その他	1	180人
	事業内容	事業数	参加者数																						
自然体験活動	7	974人																							
ボランティア活動	3	145人																							
スポーツ活動	4	298人																							
文化活動	2	325人																							
創作活動	1	41人																							
その他	1	180人																							
アンケート調査による参加者の満足度 ★目標：80%以上	90%以上	80%以上 90%未満	80%未満	97.0%																					
③プログラムの開発及び普及状況				青年の家では、時代のニーズ・利用者のニーズに応えるため、積極的にプログラムを開発していく必要があり、開発の目的を大きく3つに分けて実施した。 (1) 新規プログラム開発事業 <table><tr><th>施設名</th><th>事業名</th></tr><tr><td rowspan="3">大雪</td><td>高等学校・施設連携研究協議会</td></tr><tr><td>主催事業プログラム研究会</td></tr><tr><td>ゆーすびあ大雪ニューイベントプラン開発事業</td></tr><tr><td rowspan="3">能登</td><td>セカンドスクール高等学校</td></tr><tr><td>セカンドスクール中学校</td></tr><tr><td>セカンドスクール小学校</td></tr><tr><td>乗鞍</td><td>指導者養成セミナーのカリキュラム開発</td></tr></table>	施設名	事業名	大雪	高等学校・施設連携研究協議会	主催事業プログラム研究会	ゆーすびあ大雪ニューイベントプラン開発事業	能登	セカンドスクール高等学校	セカンドスクール中学校	セカンドスクール小学校	乗鞍	指導者養成セミナーのカリキュラム開発									
施設名	事業名																								
大雪	高等学校・施設連携研究協議会																								
	主催事業プログラム研究会																								
	ゆーすびあ大雪ニューイベントプラン開発事業																								
能登	セカンドスクール高等学校																								
	セカンドスクール中学校																								
	セカンドスクール小学校																								
乗鞍	指導者養成セミナーのカリキュラム開発																								

(2) 新規主催事業として、事業全体を開発・コーディネートし、公立青年の家や関係機関等に普及する。

事業区分	事業数
施設の立地条件を生かした先導的な事業	7
広域的な事業	3
地域の中核施設としての事業	5
国の施策を具現化する事業	3
関係機関との連携事業	1
学校週5日制対応事業	6
青年団体指導者、施設職員等を対象にした研修事業	17
ボランティアを対象とした研修事業	5
プログラムの開発・調査研究及び関係機関への普及	3
計	50

(3) 効果の高い受入れ活動プログラム（アクティビティ）を開発・導入し、利用者に供する。

活動内容	プログラム数	活動プログラム事例
野外活動	16	いかだ航海体験、沢登り、イグルー作りなど
スポーツ活動	15	車イスバスケット、ウォーターバレーなど
文化活動	7	石見銀山研究、飛騨高山の生活文化体験など
伝統文化活動	4	夢灯り、わら細工、風つくりなど
勤労生産活動	2	酪農体験、リンゴ園作業体験
その他	1	環境教育プログラム集
計	45	

利用者への広報・周知については、「概要」や「利用のガイドブック」、「活動プログラムガイド」などの資料への掲載、利用相談時の紹介、所内掲示物での紹介など多様な方法で普及促進を図った。

④事業成果及び調査研究の
取りまとめ状況と関係機
関への普及状況

青年教育の振興を図るため、主催事業や調査研究で得られた成果を報告書等にまとめ、公立青年の家、教育委員会等へ広く配布し、普及に努めた。また、多様な普及方法として、事前広報や事後の結果周知で新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどのマスメディアの有効活用、職員が直接会議等に出向いての報告、施設職員の研修会等での発表、ホームページを利用した広域な周知活動にも取り組んだ。

(1) 事業成果の取りまとめと普及状況

主催事業やプログラム開発で得られた成果を次のように報告書等にまとめ、公立青年の家等への普及を行った。

報 告 の 方 法	報告数（施設数）
全主催事業を対象とした報告書	9（9施設）
主催事業ごとの報告書	14（6施設）
全主催事業を対象にした報告書(CD-ROM)	1（1施設）
ホームページに事業報告を掲載	35（3施設）

(2) 調査研究の取りまとめと普及状況

調査研究体制を整備し、事業実施で得られた成果を調査研究、取りまとめを行うために3事業実施した。

施設名	事業名	趣 旨	新規 継続 の別	成果の普及
磐梯	受入れ事業 の評価に関 する調査研 究	受入れプログラムの調査・ 分析・評価を行い、教育効 果の高い受入れプログラム を開発することを通して、 青年の家の教育機能を高め る。	新規	①現在、調査研究報告を作成中。 ②所報（1,000部発行）に掲載 し、近隣各教育委員会・学校・ 公立施設等に送付予定。 ③独立行政法人国立オリンピッ ク記念青少年総合センター研究 紀要「青少年フォーラム」に論 文投稿予定。
乗鞍	小・中・高 校生のボラ ンティア等 の在り方に 関する調査 研究	岐阜県飛騨地方の風土に根 付いた題材を基に、地域を 守り発展させているボラン ティアの活動を、小・中・ 高校生が実際にを行うこと を通して、思いやりの心を豊 かにし自分の大切さを知る とともに社会参加の気持ちを 高める。	継続	①国立オリンピック記念青少年 総合センターと「青少年のボラ ンティア学習プログラムの在り 方に関する調査研究報告書」（1, 500部）をまとめ、全国の関係 機関にその成果を報告。主な配 布先は、文部科学省、国立教育 機関、国公立青少年教育施設、 都道府県教育委員会、中青連加 盟団体等。その他、国立オリン ピック記念青少年総合センター HPに全文掲載予定。 ②平成15年度の乗鞍青年の家 主催事業として「ぼちぼちや まいかボランティア」を小・ 中・高校生を対象に年間2回実 施し、その成果を発信。
沖縄	いきいき 自然体験 キャンプ	心因性の不登校児童・生徒 を対象に自然体験や集団生 活等を体験させることによ り、社会的な適応を支援す る。	継続	①調査研究報告書（1,000部） を作成し、県内各適応指導教室 並びに小・中・高等学校に配布 し、不登校対策の参考資料とす る予定。 ②調査・研究に関心の高い大学 等へ送付予定。

詳細は、別添資料 P 4 2 参照

中期計画の各項目	評価項目	評価基準			評価に係る実績	ABC 評 定	留 意 事 項																																																																																																																																														
	指 標	A	B	C																																																																																																																																																	
2 青年の団体宿泊訓練のための利用に供するとともに、青年の団体宿泊訓練についての指導及び助言に関する事項 ・受入れ事業 (1) 施設を、青年の健全育成を目的として学校、団体、グループなどが実施する、青年及び青年教育に携わる指導者を対象にした団体宿泊訓練のための利用に供する。 (2) 広報活動を積極的に行い、これまで青少年教育施設を利用したことのない団体を受け入れる。 (3) 公立施設では受入れが困難な大規模（200人超）利用・長期利用（5日以上）及び新規団体の利用などにも配慮しつつ、毎年度140万人程度の利用者を受け入れる。 (4) 利用団体が利用目的を達成するために必要な指導・助言の在り方を検討し、事前の利用相談等において適切な指導・助言を行い、全利用団体の最低70%を超える利用団体が目的を達成するよう事業を行う。 (5) 青年の家職員に対し、指導能力向上、企画能力向上、接遇の向上など、施設内外での研修機会を与える。 (6) 利用団体の活動支援のための外部研修指導員、施設利用者に対して様々な援助を行うボランティアなどの確保及び資質・指導力向上のための研修機会を設け、利用団体のニーズに即した支援を行う。	受入れ事業の実施状況	・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			青年の健全育成を目的とした利用対象である大学・各種学校・専門学校・高等学校・青年団体・企業や公共団体等が実施する多様な主体的な学習活動を促進するため、広く学習の機会や場を提供し、青年が「体験」と「交流」を通して、「発見」と「感動」を得ることができるように、活動プログラムの充実、効果的な指導・助言、サービスの向上に努めた。 豊かな自然に囲まれた立地条件を生かした様々な体験活動・野外活動、講堂や研修室を用いた講演・講義・研修・演習、楽器演奏・演劇等の文化活動、体育施設等を用いたスポーツ活動、更に環境学習・奉仕体験活動などを活動プログラムとして提供し、自主的な活動並びに効果的な実施ができるように支援している。	A	○職員の意識改革が進み、利用団体の目的達成のため、指導・助言態勢の充実、利用者のニーズの把握と要望への迅速な対応などサービスの向上が図られ、利用者が少なかった秋から冬の稼働数を大きく伸ばし、156万人を超える利用者を確保したことは高く評価できます。 ○広報活動では、対象別に作成した広報資料の配布、広報重点地域を絞り込んだ直接訪問での広報活動に加えて、ホームページを活用して空室状況や活動プログラム等の情報提供、掲示板を利用した利用者との情報交換などの新たな広報活動への取組は評価できますが、今後更にホームページを活用した広報活動の充実を望みます。																																																																																																																																														
	①年間の稼働数 ★目標：140万人程度	154万人以上	140万人以上 154万人未満	140万人未満	14年度稼働数：1,564,376人（団体数16,083団体） 13年度稼働数：1,507,532人（団体数13,157団体） 稼働数増減：3.8%増 団体数増減：22.2%増 (1) 月別稼働数・利用団体数 <table><tr><th></th><th>稼働数</th><th>増減比</th><th>団体数</th><th>増減比</th></tr><tr><td>4月</td><td>177,057</td><td>+7.7%</td><td>1,339</td><td>+42.8%</td></tr><tr><td>5月</td><td>200,179</td><td>+3.7%</td><td>1,521</td><td>+26.6%</td></tr><tr><td>6月</td><td>172,063</td><td>- 3.9%</td><td>1,489</td><td>+37.7%</td></tr><tr><td>7月</td><td>165,073</td><td>+0.8%</td><td>1,630</td><td>+11.3%</td></tr><tr><td>8月</td><td>214,722</td><td>+4.8%</td><td>2,166</td><td>+17.6%</td></tr><tr><td>9月</td><td>126,901</td><td>+1.0%</td><td>1,443</td><td>+27.2%</td></tr><tr><td>10月</td><td>119,600</td><td>+2.5%</td><td>1,340</td><td>+32.5%</td></tr><tr><td>11月</td><td>74,811</td><td>+19.7%</td><td>1,041</td><td>+11.7%</td></tr><tr><td>12月</td><td>62,217</td><td>+0.1%</td><td>751</td><td>+7.7%</td></tr><tr><td>1月</td><td>63,313</td><td>-5.9%</td><td>844</td><td>+15.6%</td></tr><tr><td>2月</td><td>75,392</td><td>+13.0%</td><td>1,043</td><td>+28.8%</td></tr><tr><td>3月</td><td>113,048</td><td>+11.6%</td><td>1,476</td><td>+12.1%</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1,564,376</td><td>+3.8%</td><td>16,083</td><td>+22.2%</td></tr></table> (2) 青年の家別稼働数・利用団体数 <table><tr><th></th><th>稼働数</th><th>増減比</th><th>団体数</th><th>増減比</th></tr><tr><td>大 雪</td><td>113,235</td><td>+6.7%</td><td>804</td><td>+18.1%</td></tr><tr><td>岩手山</td><td>110,507</td><td>+7.8%</td><td>1,003</td><td>+14.5%</td></tr><tr><td>磐 梯</td><td>151,292</td><td>+4.7%</td><td>1,409</td><td>+33.7%</td></tr><tr><td>赤 城</td><td>116,459</td><td>+2.3%</td><td>1,218</td><td>+32.1%</td></tr><tr><td>能 登</td><td>104,540</td><td>+11.4%</td><td>788</td><td>+14.2%</td></tr><tr><td>乗 鞍</td><td>102,761</td><td>+2.0%</td><td>889</td><td>+56.8%</td></tr><tr><td>中 央</td><td>144,032</td><td>+5.6%</td><td>1,682</td><td>+9.1%</td></tr><tr><td>淡 路</td><td>141,010</td><td>-0.5%</td><td>997</td><td>+41.6%</td></tr><tr><td>三 瓶</td><td>110,826</td><td>-0.4%</td><td>1,005</td><td>+13.3%</td></tr><tr><td>江田島</td><td>122,992</td><td>+0.5%</td><td>1,387</td><td>+4.3%</td></tr><tr><td>大 洲</td><td>133,567</td><td>+1.0%</td><td>2,888</td><td>+24.1%</td></tr><tr><td>阿 蘇</td><td>142,806</td><td>+1.8%</td><td>1,339</td><td>+27.6%</td></tr><tr><td>沖 縄</td><td>70,349</td><td>+13.8%</td><td>674</td><td>+27.7%</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1,564,376</td><td>+3.8</td><td>16,083</td><td>+22.2%</td></tr></table>				稼働数	増減比	団体数	増減比	4月	177,057	+7.7%	1,339	+42.8%	5月	200,179	+3.7%	1,521	+26.6%	6月	172,063	- 3.9%	1,489	+37.7%	7月	165,073	+0.8%	1,630	+11.3%	8月	214,722	+4.8%	2,166	+17.6%	9月	126,901	+1.0%	1,443	+27.2%	10月	119,600	+2.5%	1,340	+32.5%	11月	74,811	+19.7%	1,041	+11.7%	12月	62,217	+0.1%	751	+7.7%	1月	63,313	-5.9%	844	+15.6%	2月	75,392	+13.0%	1,043	+28.8%	3月	113,048	+11.6%	1,476	+12.1%	合 計	1,564,376	+3.8%	16,083	+22.2%		稼働数	増減比	団体数	増減比	大 雪	113,235	+6.7%	804	+18.1%	岩手山	110,507	+7.8%	1,003	+14.5%	磐 梯	151,292	+4.7%	1,409	+33.7%	赤 城	116,459	+2.3%	1,218	+32.1%	能 登	104,540	+11.4%	788	+14.2%	乗 鞍	102,761	+2.0%	889	+56.8%	中 央	144,032	+5.6%	1,682	+9.1%	淡 路	141,010	-0.5%	997	+41.6%	三 瓶	110,826	-0.4%	1,005	+13.3%	江田島	122,992	+0.5%	1,387	+4.3%	大 洲	133,567	+1.0%	2,888	+24.1%	阿 蘇	142,806	+1.8%	1,339	+27.6%	沖 縄	70,349	+13.8%	674	+27.7%	合 計	1,564,376
	稼働数	増減比	団体数	増減比																																																																																																																																																	
4月	177,057	+7.7%	1,339	+42.8%																																																																																																																																																	
5月	200,179	+3.7%	1,521	+26.6%																																																																																																																																																	
6月	172,063	- 3.9%	1,489	+37.7%																																																																																																																																																	
7月	165,073	+0.8%	1,630	+11.3%																																																																																																																																																	
8月	214,722	+4.8%	2,166	+17.6%																																																																																																																																																	
9月	126,901	+1.0%	1,443	+27.2%																																																																																																																																																	
10月	119,600	+2.5%	1,340	+32.5%																																																																																																																																																	
11月	74,811	+19.7%	1,041	+11.7%																																																																																																																																																	
12月	62,217	+0.1%	751	+7.7%																																																																																																																																																	
1月	63,313	-5.9%	844	+15.6%																																																																																																																																																	
2月	75,392	+13.0%	1,043	+28.8%																																																																																																																																																	
3月	113,048	+11.6%	1,476	+12.1%																																																																																																																																																	
合 計	1,564,376	+3.8%	16,083	+22.2%																																																																																																																																																	
	稼働数	増減比	団体数	増減比																																																																																																																																																	
大 雪	113,235	+6.7%	804	+18.1%																																																																																																																																																	
岩手山	110,507	+7.8%	1,003	+14.5%																																																																																																																																																	
磐 梯	151,292	+4.7%	1,409	+33.7%																																																																																																																																																	
赤 城	116,459	+2.3%	1,218	+32.1%																																																																																																																																																	
能 登	104,540	+11.4%	788	+14.2%																																																																																																																																																	
乗 鞍	102,761	+2.0%	889	+56.8%																																																																																																																																																	
中 央	144,032	+5.6%	1,682	+9.1%																																																																																																																																																	
淡 路	141,010	-0.5%	997	+41.6%																																																																																																																																																	
三 瓶	110,826	-0.4%	1,005	+13.3%																																																																																																																																																	
江田島	122,992	+0.5%	1,387	+4.3%																																																																																																																																																	
大 洲	133,567	+1.0%	2,888	+24.1%																																																																																																																																																	
阿 蘇	142,806	+1.8%	1,339	+27.6%																																																																																																																																																	
沖 縄	70,349	+13.8%	674	+27.7%																																																																																																																																																	
合 計	1,564,376	+3.8	16,083	+22.2%																																																																																																																																																	

②新規利用団体受入れに対する取組状況				(1) 新規利用団体数 14年度：5,112団体（全利用団体数16,083団体） 13年度：4,213団体（全利用団体数13,157団体） 団体数伸び率：21.3% (2) 新規利用団体確保のための広報活動状況 ①各青年の家の特色を生かした広報活動の推進 ア 対象別に作成したパンフレット・リーフレットの作成・配布 イ 広報重点地域を絞込み、直接訪問による広報 ウ 施設ボランティアを「あかぎ大使」に任命し、口コミでの広報 など ②ホームページの積極的な活用 ア 本部と全国13青年の家で、本格的なホームページ稼働 イ 利用団体から需要・利便性の高い「空室状況」を情報提供 ウ 活動プログラムや施設・設備について情報提供 エ 「利用者の声」として利用者アンケートでの意見とそれに対する青年の家からの回答を掲載 オ 「掲示板」を作成し、利用者との情報交換を実施 ③連携・協業による広報活動 ア 第14回生涯学習フェスティバルに出展し、全国的な広報を展開 イ 地元バス会社と協業し、バスカードに広報デザインをプリント ウ マスコミの協業で、新聞・テレビ・ラジオ等で広報
③指導・助言に対する満足度 ★目標：70%以上	80%以上	70%以上 80%未満	70%未満	(1) 事前打合せでの指導・助言に対する満足度 98.7% (2) 受入れ事業実施時の指導・助言に対する満足度 98.5%
④アンケート調査による利用者の満足度 ★目標：70%以上	80%以上	70%以上 80%未満	70%未満	(1) 利用に対する満足度：99.2% (2) 研修や活動のための施設・設備に対する満足度：97.7% (3) 食堂の施設・設備に対する満足度：98.1% (4) 宿泊のための施設・設備に対する満足度：93.7% (5) 入浴のための施設・設備に対する満足度：93.0% (6) 青年の家職員の対応や指導に対する満足度：99.0% (7) 食堂職員の対応に対する満足度：98.3% なお、不満足と答えた利用団体については、不満足な点について記述意見を参考にしたり、追跡調査を行ったりして改善に努めた。主な改善事例は、①アレルギー対応メニューなど食事メニューの改善、②野外活動コースの整備やマップの作成、③ビデオによる施設利用の説明、④貸出物品や教材などの更新・充実、⑤ネームプレートの着用、⑥宿泊環境の整備、⑦リアルタイムでの気象情報の提供、⑧サービス向上のための職員によるプロジェクト設置、⑨利用者が使用できるパソコンの整備、⑩浴室への時計設置、⑪案内掲示板の更新・充実など、各青年の家の実情に合わせて改善を図った。

⑤利用者サービス向上のための職員に対する研修の計画的な実施状況

青年の家職員が、常に利用者の立場になった発想と行動を意識するようになり、法人化になったことで職員が変化した最も特徴的なことは、サービス・ホスピタリティーの向上である。各青年の家とも、職員の意識改革と資質向上のため、職員の実情や利用者のニーズに対応した「内部研修」を積極的に行い、また外部機関が実施する実践的な研修や専門的研修の「外部研修」にも積極的に参加させた。
(1) 各青年の家が実施した内部研修

区 分	実施回数	参加者数
接遇に関する研修	8回	133人
救急救命等研修	11回	230人
防災に関する研修	22回	572人
活動の安全に関する研修	14回	210人
情報化に関する研修	7回	56人
職員の意識改革に関する研修	19回	352人
活動プログラムの習得の研修	12回	176人
新任職員に対する研修	10回	58人
その他の研修	12回	238人
合 計	115回	2,025人

(2) 外部機関が実施した外部研修への参加状況

区 分	実施回数	参加者数
野外教育に関する研修	14回	69人
ボランティアに関する研修	3回	27人
情報化に関する研修	4回	5人
国際性の涵養に関する研修	8回	31人
施設職員としての資質向上を図る研修	44回	134人
安全管理・健康管理に関する研修	20回	29人
教養・啓発に関する研修	33回	56人
実務研修	36回	118人
接遇に関する研修	2回	2人
その他の研修	2回	7人
合 計	166回	478人

⑥利用団体の活動支援のための人材等の確保及び資質等向上のための研修実施状況

利用団体が、活動プログラムを効果的かつ円滑に実施するための活動支援として、外部研修指導員・青年の家ボランティアの派遣を行っている。14年度末で、外部研修指導員は534人、青年の家ボランティアは853人である。

(1) 人材確保への取組実績

- ①設置県内の高等学校・大学等に対してボランティアの募集を実施し、人材の確保を図った。
- ②外部研修指導員登録要項を整備し、人材の更なる確保を図った。
- ③地域に存在する専門家に対して外部研修指導員としての登録を依頼し、より高い技能を持った人材の確保を図った。

(2) 研修の実施実績

- ①各青年の家で、ボランティア及び外部研修指導員のスキルアップを図る研修を実施した。
- ②各青年の家において実施した主催事業で、指導・運営補助並びに企画及び運営を通して資質の向上を図った。
- ③ボランティア集会（指導系職員を交えた意見交換会）などを実施し、ボランティアの在り方などについて討議等を行い、資質の向上を図った。
- ④活動プログラム習得のための研修にボランティアや外部研修指導員を参加させ、資質の向上を図った。

中 期 計 画 の 各 項 目	評 価 項 目	評 価 基 準			評 価 に 係 る 実 績	評 定																																					
	指 標	A	B	C		A B C 評 定	留 意 事 項																																				
3 青年の団体宿泊訓練に関し、青年教育指導者の研修に関する事項 ・主催事業 (1) 特に専門性の高い、青年教育に携わる指導者の資質向上を目的とした、次のようなブロック規模・全国規模の研修事業を実施する。 ア 青年団体指導者、施設職員等を対象にした研修 イ ボランティア養成研修 ウ 外部研修指導員を対象にした研修 エ 指導者の企画力や専門性等を高める研修	青年教育指導者研修の実施状況	・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			青年教育の中心的な拠点として、青年教育に携わる指導者の養成・資質向上を目的とした専門性の高い研修事業を、全国又はブロック規模で実施した。 施設職員の資質向上に関する研修をはじめ、民間や地域の指導者の養成、更には学校教育関係者に向けての研修など多面的な53事業（新規：17事業、継続36事業）を実施し、募集人数2,771人に対して、3,062人が参加した。 <table><tr><th>事 業 内 容</th><th>事 業 数</th><th>参加人数(人)</th></tr><tr><td>集団宿泊活動の教育的意義等の理解</td><td>4</td><td>309</td></tr><tr><td>施設運営についての研究協議</td><td>10</td><td>511</td></tr><tr><td>自然体験活動指導者の養成</td><td>15</td><td>682</td></tr><tr><td>スポーツ指導者（生涯スポーツ）</td><td>9</td><td>646</td></tr><tr><td>学校教育支援</td><td>4</td><td>167</td></tr><tr><td>カウンセリング</td><td>2</td><td>177</td></tr><tr><td>科学教育</td><td>1</td><td>27</td></tr><tr><td>ボランティアコーディネーター</td><td>2</td><td>55</td></tr><tr><td>指導者交流・情報交換</td><td>4</td><td>456</td></tr><tr><td>社会教育支援</td><td>2</td><td>32</td></tr><tr><td>合 計</td><td>53</td><td>3,062</td></tr></table> 詳細は、別添資料P25～35参照	事 業 内 容	事 業 数	参加人数(人)	集団宿泊活動の教育的意義等の理解	4	309	施設運営についての研究協議	10	511	自然体験活動指導者の養成	15	682	スポーツ指導者（生涯スポーツ）	9	646	学校教育支援	4	167	カウンセリング	2	177	科学教育	1	27	ボランティアコーディネーター	2	55	指導者交流・情報交換	4	456	社会教育支援	2	32	合 計	53	3,062	A	○青年教育指導者研修として、公立青年の家等の施設職員、学校教育関係者、地域の体験活動指導者等多様な指導者の養成に努め、青年教育の中心的な拠点として、全国規模・ブロック規模で体験活動の専門的・実践的な研修を実施して成果を上げていることは評価できます。
	事 業 内 容	事 業 数	参加人数(人)																																								
	集団宿泊活動の教育的意義等の理解	4	309																																								
	施設運営についての研究協議	10	511																																								
自然体験活動指導者の養成	15	682																																									
スポーツ指導者（生涯スポーツ）	9	646																																									
学校教育支援	4	167																																									
カウンセリング	2	177																																									
科学教育	1	27																																									
ボランティアコーディネーター	2	55																																									
指導者交流・情報交換	4	456																																									
社会教育支援	2	32																																									
合 計	53	3,062																																									
①青年団体指導者、施設職員等を対象とした研修実施状況		○ボランティア養成研修では、ボランティア意識の高揚、ボランティア活動の機会の提供など青年の家が持つ教育機能を発揮し、青年の家ボランティアの養成について成果を上げていますが、今後、青年の家ボランティアのネットワーク化や青年の家ボランティア養成カリキュラムの整備について検討されることを期待しています。																																									
アンケート調査による参加者の満足度 ★目標：80%以上	90%以上	80%以上 90%未満	80%未満	98.8%																																							

②ボランティア養成研修 実施状況				青年の家では、ボランティア活動の「きっかけづくり」「体験機会の提供」「専門知識・技術の習得による資質向上」等を目的として、ボランティアを対象にした研修事業を実施した。青年の家ボランティアや外部研修指導員の養成・資質向上・ネットワーク構築を目的とした各青年の家規模又はブロック規模の研修に加え、一般的なボランティア学習の研修も実施し、合計２２事業（新規：５事業，継続：１７事業）で、募集人数１，１１０人に対して１，２０４人が参加した。									
				<table><tr><th>研 修 内 容</th><th>事 業 数</th></tr><tr><td>養成事業</td><td>9</td></tr><tr><td>資質向上事業</td><td>9</td></tr><tr><td>ネットワーク構築事業</td><td>4</td></tr><tr><td>合 計</td><td>22</td></tr></table> 詳細は、別添資料 P 36～39 参照	研 修 内 容	事 業 数	養成事業	9	資質向上事業	9	ネットワーク構築事業	4	合 計
研 修 内 容	事 業 数												
養成事業	9												
資質向上事業	9												
ネットワーク構築事業	4												
合 計	22												
アンケート調査による 参加者の満足度 ★目標：８０％以上	90%以上	80%以上 90%未満	80%未満	98.0%									

中 期 計 画 の 各 項 目	評 価 項 目	評 価 基 準			評 価 に 係 る 実 績	評 定	
	指 標	A	B	C		A B C 評 定	留 意 事 項
4 前項の業務に附帯する計画 (1) 施設・設備の充実 主催事業参加者や利用団体の意見やニーズを把握し、団体宿泊訓練が効果的に行われるような施設・設備の計画的充実を図る。 (2) 広報活動の充実を図るための計画 刊行物等広報関係資料の配布など、事業の広報活動及び実施事業の成果の普及・啓発等を各施設の実状等を踏まえて効率的に行う。	附帯業務の実施状況	・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。					※附帯する事項であることから、主業務の各項目の評定に含める。
	①施設・設備の計画的充実に関する取組状況				※「Ⅶ－1 施設・設備の整備状況」に記載		※施設・設備の整備状況に含む。
	②広報活動の充実に関する取組状況				※「Ⅱ－1 主催事業の実施状況，Ⅱ－2 受入れ事業の実施状況」に記載		※主催事業の実施状況、受入れ事業の実施状況、青年教育指導者研修の実施状況に含む。

中期計画の各項目	評価項目	評価基準			評価に係る実績	評 定	
	指 標	A	B	C		ABC 評 定	留 意 事 項
III 予算、収支計画及び資金計画							
(1) 期間全体に係る予算 (2) 期間全体に係る収支計画 (3) 期間全体に係る資金計画	収入の確保等の状況	・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				A	○収入の確保について、自己収入、外部資金ともに努力の成果が表れていますが、更に前向きに努力することが望まれます。
	①自己収入の受入状況 ★目標：100% 自己収入決算額／自己収入予算額	110%以上	100%以上 110%未満	100%未満	青年の家は、「国立青年の家利用規則」第6条の規程において施設の利用に伴う対価を徴収しないこととしている。従って、青年の家における自己収入は、施設内の土地・建物等の賃付料など限られたものとなっている。 14年度自己収入予算額 469万円 14年度自己収入決算額 548万円 実績：117%（自己収入決算額548万円／自己収入予算額×100）		
	②外部資金の受入れ状況				外部資金は、事業運営に関して、青年教育の振興を図る目的で実施される委託事業又は共催事業等により関係機関・団体等から当法人に資金提供されるもので、14年度は8事業で2,597万円を確保した。		
IV 短期借入金の限度額							
1 短期借入金の限度額 7億円 2 想定される理由 運営費交付金の受け入れの遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借入することも想定される。	短期借入金の借入状況	・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			短期借入金の借入実績と効果、借入理由など なし		
V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画							
計画の予定なし	重要財産の処分等状況	・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			重要な財産の譲渡等の実績など なし		
VI 剰余金の使途							
①主催事業、受入れ事業の充実 ②必要な施設設備の充実	剰余金の使用等の状況	・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			剰余金による事業実施実績及び効果、剰余金による事業実施理由など なし		

中 期 計 画 の 各 項 目		評 価 項 目			評 価 基 準			評 価 に 係 る 実 績		評 定	
		指 標			A	B	C			A B C 評 定	留 意 事 項
VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項											
1 施設・設備に関する事項 (1) 研修・宿泊施設等の新設、改修、増設計画等 防災、研修の充実、快適な食・住環境の確保等の観点から、必要な施設設備の新設、改修、増設等を計画的に進める。 (2) 高齢者及び身障者に配慮した施設整備の推進 「高齢者及び身体障害者等が円滑に利用できる特定建築の促進に関する法律」等の基準に従い、高齢者等が円滑に施設・設備を利用できるような配慮を行う。		施設・設備の整備状況	・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			立地条件に恵まれた素晴らしい施設を更に良好な施設環境に資するために、各青年の家の利用形態及び管理運営に即し、かつ安全性・経済性・環境保全等を考慮した長期的な施設整備を行う。			A	○限られた予算の中で効率的な施設・設備の整備に努めていますが、今後、特に自然環境に配慮しながら施設の老朽化や時代のニーズに対応するための施設整備を進めることが望まれます。 ○身障者等の施設利用への配慮や受動喫煙防止等利用者の健康に配慮した施設運営について、一層努力することが望まれます。	
		①防災、研修の充実、快適な食・住環境等の確保の観点に立った施設設備の整備状況				長期的視野に立った施設整備の維持管理を実施することを目的に、利用者が快適に施設・設備を利用できるよう防災、研修の充実、快適な食・住環境の確保などを念頭に「研修・宿泊施設等の新設、改修、増設計画等」に基づいた施設整備を実施した。 建物の新築及び環境整備の場合は、当該建物のみに着目することなく、整備建物の周辺及び施設全体の整備状況や敷地周辺の環境にも着目し、自然の中での融合をめざした。既存建物の改修工事の場合は、耐震改修を主眼におき、各青年の家の主要建物の耐震調査を進め、その結果を基に既存施設の利用状況を調査した上で耐震改修工事を行った。また、その他改修工事においても既存施設の立地、現状、利用状況を十分に把握した上で計画し実施した。					
					施設整備費補助金事業 (千円)						
					施設整備資金貸付金事業 (千円)						

②高齢者等に配慮した施設の整備状況

長期的視野に立った施設整備の維持管理を実施することを目的に、利用者が快適に施設・設備を利用できるよう「高齢者及び身体障害者等が円滑に利用できる特定建築の促進に関する法律」等に基づいた施設整備を実施した。
 高齢者及び身障者が円滑に施設を利用するためには、どのような対策が必要なのかをテーマに、利用者の利便性及び安全性を考慮した上で検討した結果、身障者エレベーターの設置、身障者対応の宿泊室及び便所等の整備を行った。また、新設建物等においては、廊下・扉幅の確保、段差の解消、手摺等の設置等の安全対策を講じた整備をした。

施設整備費補助金事業 (千円)

施設名	事業名	事業費
大雪	屋内プール空調機械改修（再掲）	117,695
岩手山	給水設備等改修及び管理研修棟改修エレベーター設置（再掲）	117,748
赤城	野外炊事場改修（再掲）	279,086
乗鞍	受水槽棟改築等（再掲）	172,732
淡路	公共下水道排水管引込等改修（再掲）	46,016
江田島	管理研修棟便所改修（再掲）	35,790
計		769,067

施設整備資金貸付金事業 (千円)

施設名	事業名	事業費
大雪	本館バリアフリー化等改修（再掲）	22,171
磐梯	談話棟耐震補強等改修（再掲）	71,983
赤城	浴室棟新営（再掲）	267,316
阿蘇	食堂棟新営（再掲）	247,890
計		609,360

2 人事に関する計画 (1) 方針 ア 人事サイクルを基本とした、実践的研修や専門的研修事業の活用による青年教育施設の専門家の計画的な養成を図る。 イ 関係機関との間で幅広く計画的な人事交流を行い、多様な人材を確保する。 ウ 人事管理については新情報ネットワークシステムにおいて管理する。 (2) 人員に関する指標 常勤職員について、その職員数の抑制を図る。	人事管理の状況	・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	円滑な事業の推進と組織の活力を高める観点から、14年度も引き続き、①多様な人材の確保、②職員の資質向上のための職員研修の実施、③ネットワークシステムによる人事管理、④常勤職員数の抑制を基本的な方針として実施した。 (1) 多様な人材の確保 ①専門家の養成 青年の家の事業運営の蓄積と長期にわたるプログラム開発等の重要性を鑑み、プロパー職員として青年の家の専門家を養成することとした。 ア 平成14年7月1日付けでプロパー職員3人を採用（男性1人、女性2人） イ 平成15年4月1日付けのプロパー職員6人採用（男性4人、女性2人）に向けた準備を実施 ②関係機関との人事交流 事務事業の円滑化と組織の活性化を図るため、積極的な人事交流を実施した。 <table><tr><th>区 分</th><th>14年度中の人事交流</th><th>14年度末の任用状況</th></tr><tr><td>国の機関等</td><td>49人</td><td>130人</td></tr><tr><td>地方公共団体等</td><td>23人</td><td>81人</td></tr></table> 常勤職員数：306人 14年度は、乗鞍青年の家で高山市教育委員会との新たな人事交流を実施した。また、15年度からの人事交流として、磐梯青年の家が猪苗代町商工観光課と、赤城青年の家が群馬県環境生活部自然環境課との人事交流に向けた準備を実施した。 (2) 職員の資質向上のための職員研修の実施 ※II-2-⑤ 「利用者サービスのための職員に対する研修の計画的な実施状況」に掲載 (3) ネットワークシステムによる人事管理 法人発足時に運用を開始した「人事給与システム」は、各施設の人事情報（給与を含む）を各施設で入力し、本部に集約し、これらのデータを基に人事記録等の管理や給与の支払い業務等を行っている。これにより、各施設の人事管理業務は従来と比較して簡素化されている。 14年度には、人事院勧告に基づく、「一般職の職員の給与に関する法律」（昭和25年法律第95号）等の改正を勘案し、職員給与規程の改正を実施し、本システムに対して、必要な改正を実施した。 (4) 常勤職員数の抑制 中期計画中の常勤職員数307人に対して、14年度末における国立青年の家常勤職員の数 306人である。	区 分	14年度中の人事交流	14年度末の任用状況	国の機関等	49人	130人	地方公共団体等	23人	81人	A ○円滑な事業の推進と組織の活性化のため、プロパー専門職員等3人の採用と15年度採用に向けた準備や新たな人事交流の実施など多様な人材確保の積極的な取組は高く評価できますが、公募の方法などの工夫が更に望まれます。 ○各青年の家の実情に合わせた内部研修の実施や外部機関が実施する実践的・専門的な外部研修に積極的に参加させるなど、職員の資質向上に向けた努力は評価できます。
区 分	14年度中の人事交流	14年度末の任用状況											
国の機関等	49人	130人											
地方公共団体等	23人	81人											

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表1 施設の立地条件を生かした先導的な事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日（期間）	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
大雪	パノラミック 大雪	大雪の美しく雄大な自然を舞台に、写真を通して表現力の向上を図りながら、豊かな心を育む。	高校生 学生 一般	6月22日～23日	継続	施設周辺の絶好のロケーションを生かした写真を通して、表現力の向上及び感性を磨く、心を豊かにすることで青年の文化活動の促進に寄与する。	39/40	100%	
	ゆーすびあ 野外活動 フェスティバル	十勝岳連峰の登山を通して、登山の基本的な技術やマナーについて学び、自然の美しさや生命の尊さにふれながら登山の楽しさを味わう機会とする。	高校生 学生 一般 親子	7月20日～21日	継続	青年の家背後にそびえる十勝岳連峰の雄大な自然環境における野外活動を通して、豊かな感性と自立心・向上心の醸成を目指す。	75/80	100%	
	ベスト スイミング in大雪	水泳の魅力や楽しさを味わいながら技能の向上を図るとともに、健康についての関心を高める機会とする。	高校生 学生 一般	10月12日～13日	継続	夏季の気温が低く水泳活動が気軽に行えない北海道において、当施設の温水プールを利用して水泳スポーツを普及することにより、地域の生涯学習の機会提供と、河川等での水難事故防止に寄与する。	49/50	100%	
	スノー フェスティバル in大雪	ウィンタースポーツの魅力や楽しさを味わい、参加者相互の交流を図りながら、技術の習得及び技能の向上を目指す。	高校生 学生 一般	1月10日～13日	継続	北海道の立地条件を生かした事業であり、青年の冬季のスポーツ活動（スキー、スノーボード）の充実・発展に貢献する。	96/100	98%	
岩手山	イーハトーブ 宮沢賢治の世界	青年教育に情熱を傾けた宮沢賢治の精神を、時空を越えて現代青年に伝達し、宮沢賢治を育んだ地を訪れ、宮沢賢治の思想や生き方を学ぶ。	青年 一般	9月14日～16日	新規	開所30周年記念特別事業として、周辺の市町村と連携し、岩手県の著名な文化人である「宮沢賢治」を全国に広く発信し、青年の文化教育の促進に寄与する。	29/50	100%	共催 盛岡市 雫石町 西根町
	トレック 2038 岩手山	登山を通して岩手山の魅力と岩手山青年の家との関わりや自然のすばらしさを実感しながら、参加者相互の交流を図る。	青年 一般	9月21日～23日	新規	近年の登山ブームと岩手山の入山規制緩和によって登山者が増加し、登山充実・発展と安全確保に貢献する。また、開所30周年記念を背景に青年の家周辺市町村と良好な連携体制を構築する。	106/300	98%	共催 盛岡市 雫石町 西根町
	SNOW・スノー・ すのー	体力や技能に応じたスキー、スノーボードの技術向上を図るとともに、参加者相互の交流を図る。	小学生以上	1月25日～26日	新規	周辺に、大規模なスキー場が多数存在する立地条件を生かし、青年の家を宿泊拠点としながらそれぞれの技術・体力に合わせた適切な指導を提供することで、青少年のスポーツ活動の活性化に寄与する。	182/200	93%	共催 盛岡市 雫石町 西根町
									滝沢村 玉山村 松尾村

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表1 施設の立地条件を生かした先導的な事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日（期間）	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
赤城	あかぎ環境教育 プロジェクト ～アクティブ &ヒーリング～	赤城山周辺や尾瀬の自然をアクティブに、また、じっくり行う体験活動、参加体験型の環境教育プログラム等を通して、環境に対する知識、自然を大切に作る感性の向上等の自己の成長を図るとともに、環境に対する諸課題を解決していくネットワーク構築の一助とする。	①高校生 学生等 青年 ②一般	①9月 3日 ～ 6日 ②9月22日 ～24日	新規	青年・一般成人が直接の体験や参加型プログラムにより、他人とのネットワークを構築することで、自然環境に対する知識だけではなく、公共の精神を涵養する。	① 11/20 ② 26/30	①② 100%	
能登	レッツ！ スキューバダイ ビング	生涯にわたって取り組めるマリンスポーツを紹介するとともに、海洋型施設としてマリンスポーツの普及・振興を図る。	青年 (高校生以上)	7月6日～7日	継続	青年に関心の高い生涯スポーツであり、ダイビングを通して海の生物や環境保護への意識向上に寄与する。	20/20	100%	
	チャレンジ！ ヨット セーリング	能登の海に親しみながらヨットの基礎知識や技能を学ぶとともに、マリンスポーツに積極的に参加しようとする意欲を高める。	小学6年 以上	7月13日～14日	継続	立地条件を生かした事業としてマリンスポーツ事業開催の要望が根強く、県・市が期待するヨット競技人口の拡大に寄与すると同時に、環境教育の推進に貢献する。	19/20	95%	
	チャレンジ！ 能登一周	能登での長期体験活動事業を実施することにより、青少年の自己開発のための野外教育、冒険教育プログラムの開発・普及を図る。	小学5年 以上 中学生	7月21日～28日	継続	能登半島のフィールドポテンシャルデータの蓄積、野外教育としての指導方法の確立を通して、他施設への普及のための基礎資料を得る。	24/25	100%	
乗鞍	雲表を歩く 北アルプス登山	北アルプス登山を通じて、登山に必要な基礎的知識・技術及び態度を学び、大自然への敬愛の心を養うとともに、自然と人のつながり、広がり伝える機会とする。	18歳以上 の青年	7月27日～30日	継続	豊かな自然の中で活動することを通して、環境保全意識の向上や安全登山についての意識の啓蒙に寄与する。	25/30	100%	
	乗鞍アドベン チャー キャンプ -大自然に挑戦-	乗鞍岳山頂から日本海までの超ロングコースを、登山、マウンテンバイク、ラフトボートのライディングをしながら、大自然・仲間・自己を見つめ直し、互いに励ましあいながら最後までやり抜く。	青年	8月16日～20日	継続	自ら困難な課題に立ち向かい、それを克服することで、自立心・向上心にあふれる青年の育成に寄与する。	30/20	96%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表1 施設の立地条件を生かした先導的な事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日（期間）	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
中央	青春の旅 2002 ～野外活動まる かじり～	静岡県内の海型、高原型の青少年教育施設で特色あるプログラムを体験し、野外活動の知識や技術を身につけ、青年リーダーとしての資質の涵養を図る。	15歳～ 30歳	8月14日～20日	継続	公立施設との連携を強め、青年リーダーの資質向上を図ることで、地域の教育力の向上に貢献する。	24/30	96%	共催 静岡県立三ヶ日 青年の家・静岡 県立焼津青少年 の家・静岡県立 朝霧野外活動セ ンター
淡路	うずしお キャンプ	障害を持つ子どもたちに野外活動の楽しさや自然と触れあう機会を提供するとともに、リーダー養成セミナー受講者の実習の場として資質の向上を図る。	障害をもつ 小・中・高 校生	① 7月27日 ② 8月23日 ～25日	継続	障害を持つ子どもたちにキャンプの機会を提供するとともに、障害者のキャンプボランティアの育成を図る。	24/20	96%	
	アドベンチャー キャンプ	様々な冒険プログラムを体験することにより野外教育の理解を深めるとともに、人間関係づくりや自分の成長と可能性を見つけたす機会を提供する。	大学生 専門学校生 社会人	8月8日～12日	新規	チャレンジする機会の少ない若者に野外活動を通して自分と向き合い、自己に挑戦する機会や場を提供する。	26/30	100%	
三瓶	SANbe Out Door Life教室	登山に対する安全で基本的な考え、技術を身につけ、登山を楽しみ、自然を発見する喜びを味わうことをねらいとする。	青年 社会人	① 5月25日 ～26日 ②11月 9日 ～10日 ③ 2月15日 ～16日	継続	三瓶山の麓に位置する立地特性を生かした事業であり、地域の自然の良さを発見し、自然の厳しさ、生命の力強さ、森の豊かさを体感し、自分たちの生活する地域との比較の中で、環境保護へ意識向上に寄与する。	98/80	99%	
	ファームステイ 三瓶	三瓶山周辺地域の産業である酪農・和牛飼育の農家及び三瓶開拓酪農農業協同組合の理解と協力のもとに、農家での勤労・生活体験をファームステイを通して、人と自然の関わり・生命・環境問題・食糧問題・対人関係を学習することをねらいとする。	青年 高校生 中学生	通 年	新規	地域の産業と連携して、地域に根ざした施設として、人的資源を活用しながら、「生きる力」を育み、地域の活性化に貢献する。	49/40	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表1 施設の立地条件を生かした先導的な事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
三瓶	Science Seminar	理数科高校生の校外学習の一環として、また自然科学に興味・関心を持つ高校生を対象に、各種実体験を通して、自然・環境・生活・科学等に対するリテラシーの高揚を図る。また、日本でも有数の和牛繁殖の地という特性を生かし、地場産業・地域環境に科学的アプローチを試み、科学の進歩における人間生活と自然環境を考え「生命」に触れることをねらいとする。	高校生	① 6月19日 ～20日 ② 7月 4日 ～ 5日 ③ 7月11日 ～12日 ④10月22日 ～23日	継続	科学離れ対応事業として、学校独自で企画・実施することが困難な事業を青年の家が実施し、青年の科学に関する興味・関心を高めると同時に、一線級の研究者による情報を発信することで中核施設としての役割を果たす。	342/320	94%	
江田島	現代若衆宿 ①夏の若衆宿 ②冬の若衆宿	青年たちが「青年の家から学校や職場に通う」という試みにより友人関係を広げ、活動を通して心身のリフレッシュを図り、青年の余暇活動の充実と生涯学習の機会を提供する。	青年	① 7月13日 ～21日 ② 2月 8日 ～16日	継続	集団生活活動を通し、青年が自主的・積極的に社会や他者と関わることで公共の精神を涵養する。	① 317/310 ② 452/410	① 98% ② 95%	
	海辺の自然学校	野外活動に関心をもつ青年が、海辺の旧学校施設を利用して青少年を対象にするキャンプを企画・運営し、指導力・実践力の向上を図る。自然豊かな鹿老渡での野外活動などを通して、仲間と協力する力や自然を感じる力を育てる。また、鹿老渡の地域の人々との交流を通して、地域の文化や伝統を学ぶ。	小学校4年生以上 中学生 高校生	8月4日～11日	継続	生涯学習審議会の答申「生活体験・自然体験が日本の子どもの心をはぐくむ」を受け、子どもたちの自然体験活動を促進し、社会性や豊かな人間性を育む。	32/30	100%	共催 広島県キャンプ協会・倉橋町・倉橋町教育委員会
	体験航海セミナー	海に関心を持つ青年が、国立広島商船高等専門学校の練習船「広島丸」での体験航海の中で、船舶の航海や運用に関する基礎的な実技や知識を体験的に学ぶことにより、船や海への興味・関心をさらに深める。	青年 海洋関係の進路に関心のある中学3年生	8月20日～23日	継続	現代的な課題となっている青少年の「科学離れ」の対策として、海型の立地条件を生かし、船を活用して体験的に科学技術に触れる機会を提供する。また、海や船に対する興味・関心を高め、航海を体験しながら、様々な人達とコミュニケーションをとることで社会性や豊かな人間性を育む。	17/15	100%	共催 広島商船高等専門学校
大洲	ドラマティックカヌー ー宇和海シーカヤック編ー	シーカヤックに関心を持つ仲間が、宇和海の海と空の青さの中で、シーカヤックを生涯スポーツとして楽しみながら、健康・体力の増進を図ると同時に、自然に対する理解を深め、参加者相互の交流を図る。	高校生以上	7月27日～29日 RESTART版 9月21日～22日	継続	海を巡るグループでのツーリングでは、現代の若者にチャレンジ精神や忍耐力・協調性を醸成すると同時に、水面に近い場所から海を見ることで、自然環境に関する意識の喚起を促す。	10/25	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表1 施設の立地条件を生かした先導的な事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日（期間）	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
大洲	俳句ing in Ozu !	俳句についての知識を学び、その楽しさを理解する。また句作を通して自然への関心を高めるとともに参加者相互の交流を深める。	高校生 大学生	2月8日～9日	新規	正岡子規をはじめ数多くの俳人を輩出した愛媛の風土を背景に、高校生が集い句作を競う「俳句甲子園」も毎年松山で開催されるなど、若者にも俳句の楽しさが浸透しつつある。事業を通してさらに普及を図り、青年の感性の涵養に寄与する。	18/30	100%	
阿蘇	安全登山教室	近年の登山ブームにより急増する登山中の事故に対応するため、安全な登山の知識・技術・マナーを習得するとともに、登山のすばらしさを体験する。	青年及び 成人	6月14日～15日	継続	地域の阿蘇山系で山岳遭難事故多発を受け、安全登山の普及と啓発を呼びかけることで、事故防止に寄与する。	51/50	100%	
	トライASOロ ンパラグライ ダーコース 乗馬コース	青年をはじめ各年代の人々が、生涯スポーツに関する事業を通して、技術・マナー及びルールを習得するとともに、健康・体力の維持増進を図ることなど生涯スポーツの普及・振興に資する。	青年及び 成人	10月26日～27日	継続	阿蘇地域ならではのスポーツを紹介することで、地域及び近隣の青年に体験の場を提供し、生涯スポーツの普及・振興を図る。	30/30	100%	
沖縄	サンゴ礁 ウォッチング	環境教育事業として、サンゴ礁生物群集をさまざまな角度から観察・学習し、人間と環境との関わりや共存のあり方について認識を深める。	高校生 学生 社会人	9月14日～16日	継続	豊かなサンゴ礁の海を舞台に自然観察体験を通して、多くの参加者に感銘を与え、環境問題への意識向上に寄与する。	46/30	100%	
	無人島 アドベンチャー キャンプ	無人島を舞台に、自然体験活動を通して生きる力を育み問題解決能力の向上を図る。	高校生 学生 社会人	9月21日～23日	継続	短期間の無人島自然体験プログラムであり、社会人や長期キャンプに参加できない方へも豊かな自然体験を提供し、豊かな心を育むことに貢献する。	34/30	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表2 広域的な事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
岩手山	高校生アスリートキャンプ	日本の伝統文化である空手道の精神を重んじ、競技力向上をめざすとともに高等学校空手道部のリーダーとしての資質を高める。	高等学校 空手道部員	5月3日～5日	継続	同じ志を持つ青年が集い交流することで、青年の社会性を伸ばす機会とし、同時に青年の家に對する理解を深める。	537/400	76%	共催 東北高等学校体育連盟空手道専門部
	ユースセミナー「ノーマライゼーション」	学校の教育活動の一環として青年の家の主催事業に参加し、ノーマライゼーション社会の実現に寄与しようとする意欲と態度を高める。	高校生	通 年	継続	平成15年度から実施される高等学校の「総合的な学習の時間」に対して、学校外での学びの機会を提供する。	1922/600	95%	
	フォーラム ニューリーダー 2002	高等学校における生徒会活動の運営方法に関する実践事例や意見の交換などを通して、生徒会リーダーとしての資質を高める。	高等学校 生徒会 新役員	11月6日～8日	継続	高等学校の生徒会リーダー育成の立場から、また教職員でなく生徒レベルでの、学校間ネットワーク形成に貢献する。	215/240	90%	
磐梯	猪苗代湖 レイクロード ウォーク	ウォーキング大会の参加を通して、自分の力に合わせたウォーキングを楽しみ、健康の増進を図る。	一般	6月1日・2日	新規	スポーツ活動を通して健康でたくましい体を作るとともに、ルールや公正さを重んじる精神、思いやりの心、忍耐力などを涵養する。	852/1000	96%	
赤城	ユース フォーラム	青少年を取り巻く問題について、ディスカッション、専門家との質疑応答、また、インターネット等を使用した意見交換を通して、青年が地域（ローカル）及び地球規模（グローバル）の問題を共有化し、解決へ向けた行動の一步としていくとともに、地域を越えた青年の幅広い交流を図る。	青年・青少年 教育関係者等	11月29日 ～12月1日	継続	青少年を取り巻く問題について、青年たちが自ら語り合う機会を設けることで、社会の形成者としての意識の喚起を促すと同時に、ネットワーク作りに貢献する。	145/200	99%	
能登	第2回国立能登 青年の家所長杯 争奪高等学校 剣道大会	剣道錬成会を通して、参加者相互の親睦を図り、競技技術の向上を目指す。	中部・近畿 各県高等学校 剣道部	9月14日～16日	継続	同じ志を持つ青年が集い交流することで、青年の社会性を伸ばす機会とし、同時に青年の家に對する理解を深める。	743/450	95%	共催 北國新聞社
	第2回国立能登 青年の家所長杯 争奪中学校 剣道大会	剣道錬成会を通して、参加者相互の親睦を図り、競技技術の向上を目指す。	北信越各県 中学校 剣道部	3月25日～27日	継続	同じ志を持つ青年が集い交流することで、青年の社会性を伸ばす機会とし、同時に青年の家に對する理解を深める。	574/400	90%	共催 北國新聞社

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表2 広域的な事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日（期間）	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
中央	チャレンジ！ 3776m富士 登山～世界の若 者と登ろう～	富士登山を通して、各地から 参加した若者が協力しあい、 達成感や成就感を味わうとと もに、環境の保全に配慮した 望ましい働きかけのできる青 年を育成する。	15歳～30歳 中学生は除 く、健康で 登山 可能な人	8月1日～3日	継続	富士登山への要望は多く、また、国際理解や環 境保全といった今日的な課題について、青年に 富士登山を通して考え実践する機会を提供す る。	45/50	100%	共催 放送大学
淡路	第7回うずしお カッターレース	海洋活動であるカッターレー スを通じて、海への理解を深 めるとともに、参加者相互の 交流を図る。	青年	7月6日～7日	継続	カッターというスポーツを通して、海洋につい ての興味・理解を深めると同時に、海洋スポー ツの普及発展に寄与する。	334/240	94%	
	高校生バレー ボールのつどい	バレーボールの技能の習得を はじめ、交歓試合を通じてス ポーツの楽しさを味わい、参 加者相互の交流を図る。	高校女子バ レーボール 部員 と指導者	12月20日 ～23日	継続	同じ志を持つ青年が集い交流することで、青年 の社会性を伸ばす機会とし、同時に青年の家に 対する理解を深める。	514/400	94%	
	うずしおサッ カーのつどい	サッカーの技能の習得をはじ め、交歓試合を通じてスポー ツの楽しさを味わい、参加者 相互の交流を図る。	少年サッ カーチーム 部員 と指導者	1月11日～13日	継続	小学生のサッカー技術の向上に貢献するととも に、地域の小学生の交流の場を提供し、スポー ツ活動の充実とともに公共の精神を涵養する。	435/400	100%	
	高校生演劇 ワークショップ	総合芸術である演劇に関する 知識や技術を習得するととも に、参加者相互の交流を深め ながら感性や創造性を高める。	演劇を愛好 する高校生	3月14日～16日	新規	演劇を通じて若者のコミュニケーション技術と 感性を育てるとともに、自らの今後の生き方を 考えるための機会を提供する。	21/30	100%	
	うずしおバレー ボールのつどい	バレーボールの技能の習得を はじめ、交歓試合を通じてス ポーツの楽しさを味わい、参 加者相互の交流を図る。	少女バレー ボールチー ム部員 と指導者	3月21日～23日	継続	小学生のバレーボール技術の向上と、地域小学 生の交流の場を提供し、スポーツ活動の充実と共 に公共の精神を涵養する。	943/400	95%	
三瓶	剣道合同稽古	厳冬の中、剣道の稽古を通じ て、心身を鍛練するととも に、参加者相互の交流を深め、自主的活動の意欲を高め る。	中学生 高校生	①12月21日 ～24日 ② 2月 5日 ～ 7日	継続	同じ志を持つ青年が集い交流することで、青年 の社会性を伸ばす機会とし、同時に剣道の普及 に貢献する。	602/600	95%	
	柔道合同稽古	厳冬の中、柔道の稽古を通じ て、心身を鍛練するととも に、参加者相互の交流を深め、自主的活動の意欲を高め る。	中学生 高校生	①12月21日 ～23日 ②12月23日 ～25日	継続	同じ志を持つ青年が集い交流することで、青年 の社会性を伸ばす機会とし、同時に柔道の普及 に貢献する。	361/350	99%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表2 広域的な事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
三瓶	弓道合同稽古	弓道の稽古を通じて、心身を鍛練するとともに、参加者相互の交流を深め、自主的活動の意欲を高める。	高校生	3月8日～9日	継続	同じ志を持つ青年が集い交流することで、青年の社会性を伸ばす機会とし、同時に弓道の普及に貢献する。	108/70	98%	
	全国青年の家協議会旗争奪高校女子柔道大会	柔道の稽古、試合を通して、心身を鍛練するとともに、参加者の交流を深め、自主的活動の意欲を高める。	高校生 (全国選抜)	3月25日～27日	継続	島根県内で、全国レベルの選手が集まる大会は他にはなく、全国レベルの指導方法について研修できる数少ない機会であり、県内からの参加者や指導者の心身の鍛錬の機会を提供する。	438/300	93%	
江田島	2002日独青少年交流・姉妹都市青少年交流	次代を担う我が国の青少年が、ドイツの青少年との交流を通して友情を培い、国際理解と国際感覚を身につけ、世界平和のため、国際社会のよき指導者の養成を図る。	青少年活動をしている 大学生・高校生	8月3日～28日	新規	近年の国際社会において相互依存関係はますます深まっており、国際交流の重要性が増している状況にあって、国際化の進展する社会の各分野で指導性を発揮できる青年を育成する。	17/30	100%	共催 広島国際青少年協会・ハノーバー市・ハノーバー市青少年議会
	高校生と外国人留学生との交流会	高校生と現在日本に留学中の外国人留学生(高校生)及び外国語指導助手との交流を通して、多様な文化に対する理解を深め、国際社会で主体的に活躍できる青年の育成を図る。	留学を希望する・留学経験のある高校生、日本に留学中の高校生	12月16日～18日	継続	国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、主体的に生きていく青年を育成するため、高校生を対象に日本に留学している高校生と外国語指導助手との交流を通して国際理解・国際交流の機会を提供する。	183/200	99%	共催 広島県教育委員会
大洲	ドラマティックカヌー-肱川ツーリング編-	カヌーツーリングに関心を持つ仲間たちが集い、清流肱川で川下りをするにより、カヌーの楽しさや完漕の喜びや自然の雄大さ、優しさ、厳しさなどを体験するとともに、参加者相互の交流・交歓を図る。	カヌーの経験がある青年・成年	5月3日～5日	継続	前年度のカヌー指導者養成事業参加者が、グループのリーダー的な役割を果たすことで、ボランティアの実践訓練の場を提供すると同時に、カヌースポーツの普及と安全意識の啓蒙に寄与する。	49/25	98%	
阿蘇	沖縄・阿蘇青年ふれあいキャンプ	沖縄の青い空の中で、自然体験活動を通して、課題解決能力を身につけ、沖縄の自然や文化・歴史について理解するとともに、参加者相互の交流・交歓を深め、協調性や社会性を育む。	青年及び成人	9月12日～17日	継続	参加者の交流を通して公共の精神を涵養し、青年リーダーを育成する。	31/30	100%	共催 国立沖縄青年の家
沖縄		沖縄の自然や文化・歴史について理解を深めるとともに、自然体験や集団生活を通し、参加者相互の交流を深める	高校生 学生 社会人	9月14日～16日	継続	地域を越えた青年がつどい、新鮮な体験と異なる文化の交流の場を提供する。	61/30	100%	共催 国立阿蘇青年の家

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表2 広域的な事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日（期間）	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
沖縄	第29回無人島に 挑む全国青年の つどい	慶良間諸島の無人島における 自然体験や集団生活を通し て、青年たちが感性や生きる 力を育む。また、自主・自発性 や協調性、社会性等の対人関 係能力の向上と問題解決能力 の涵養を図る。	全国の 高校生 学生 社会人	8月3日～9日	継続	無人島を舞台としたダイナミックな自然体験を 通して、青年の豊かな感性や自立心、社会性等 の回復に寄与する。	33/30	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表3 地域の中核施設としての事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日（期間）	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
大雪	ゆーすぴあ野外 活動指導者 セミナー	十勝岳連峰の自然を舞台に、 野外活動のプログラミングの ノウハウとその実施方法につ いて実技を通して学び、野外 教育の推進に資する機会とす る。	教員・野外 教育指導 者・指導者 をめざす者	7月4日～7日	継続	青少年の自然体験の重要性が各方面から指摘さ れる中、野外活動に関する専門的な技能や能力 を持った指導者を育成・確保する。	10/15	100%	
	ゆーすぴあ ヤングフェス ティバル	いろいろな立場の若者たちが 集い、レクリエーションや討 議等を通して、相互の交流や 情報交換を図るとともに、新 しい「出会い」「発見」「学 び」の場を提供する機会とす る。	青年	2月21日～23日	新規	青年にとって、寝食を共にしながら、自己や社 会の課題をテーマにディスカッションしたり、 レクリエーションや発表活動を通して「自分探 し」をする場や機会を提供する。	28/50	100%	
岩手山	テンパーク フェスティバル	岩手山青年の家を広く開放 し、各種の野外活動や文化活 動等を通して青年の家への理 解を深める。また、近隣市町 村と連携し、地域の人達相互 のふれあいの場をつくるとと もに地域の理解に寄与する。	小学生以上	10月19日～20日	新規	青年の家が、地域の中核としての機能を果たす ため、近隣市町村との連携を図りながら、青年 の家が持っている機能を地域住民に提供する。	2553/2000	97%	共催 盛岡市・滝沢 村・雫石町・西 根町・松尾村・ 玉山村とその教 育委員会
磐梯	いなわしろ フェスティバル 2002	青年の家を広く開放し、自 然、科学、文化、教育等の活 動を通して、親子や世代間・ 地域の交流を図るとともに施 設に対する理解を深める。 イベントでのボランティア活 動を通して、青年のボラン ティアとしての意識を高め る。	一般 青年	6月8日・9日	継続	地域の中核的施設として、施設を開放し自然、 科学、文化、教育等を通して住民の交流を図 り、地域の活性化を図る。	10913 /10000	100%	
赤城	赤城福祉 キャンプ ～みんなで 自然体験活動～	障害者団体と連携し、障害者 のための自然体験活動プログ ラムを作成して、赤城キャン プ場を中心に体験活動を楽し みながら達成感を味わう。青 年は、活動の支援を行うこと で、福祉ボランティアとして の知識・技術・心構えを身に つける。	障害者 指導者 青年	9月14日～16日	新規	関連団体、研究機関と連携しながらプログラム を具現化することで、地域の教育力向上に寄与 する。	75/50	100%	
能登	桜まつり	桜の開花時期に合わせて「桜 の森」を一般市民に開放し、 花見を楽しんでもらうととも に施設の活動プログラムを提 供する。	一般市民	4月1日～14日	継続	桜の開花時に合わせた施設開放を通し青年の家 に対する理解を深めると同時に、地域住民に対 する交流の場、生涯学習の機会を提供する。	3843/2000	90%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表3 地域の中核施設としての事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
乗鞍	のりくら高原 グリーン フェスティバル	野外活動・スポーツ・文化等の活動を通して、親子や世代間交流・障害者と健常者との交流、広域の青少年団体ボランティア活動等、民間の企業や公的な諸機関と連携を図り、明日を担う日本人のあるべき姿を若者や社会教育団体と共に考える。	一般 家族	5月25日～26日	継続	施設開放事業として国立乗鞍青年の家を広く紹介するとともに、地元で活躍する諸団体の活動の場としての認知を広め、生涯学習の推進に貢献する。	1400/1200	100%	
	スキー&スノー ボード 白銀のつどい	安全で正しいスキー・スノーボードの知識・技術を得得するとともに、それぞれの種目を体験し、理解を図る。また、青年の家の生活体験や態度を学び、冬の大自然とのふれ合いを通じて参加者相互の友情を深める。	青年 一般	1月23日～26日	継続	乗鞍の大自然に触れ自然の厳しさ、すばらしさを体感するとともに、スキー技術とスノーボード技術の習得を支援する。	250/250	98%	
中央	富士のさと 高校生弓道大会	弓道大会を通して、青少年の心身の育成と弓道の技能の向上を図るとともに、青少年のスポーツ活動の推進と、青年の家の紹介を目的とする。	高校生	10月5日～6日	継続	県大会級で予選のない高校生の弓道大会は本大会以外に実施されていないため、広域の高校生が技術を高め、交流を深める場を提供する。	390/350	89%	
	富士のさと 剣道大会	青少年の青年の家に対する認識を深めるとともに、武道を通じて青少年の健全育成に資する。	中学生 高校生 剣道指導者	3月8日～9日	継続	予選のない県大会級の大会であり、中学生と高校生が一堂に会する大会でもあり、他の機関では実施することができない事業である。	374/350	87%	
	青年の家フェス ティバル	富士山麓で生活する人々の交流を図り、地域の発展に貢献するとともに、青年の家の理解を深める機会とする。また、青年の社会参加の機会とする。	定めない	10月19日	新規	施設開放事業を実施することで地域との協力体制を構築し、地域の教育資源を活用し、青年の家の事業を充実させる。	4100/2500	87%	共催 御殿場市
	冬に鍛える 武道のつどい (剣道)	寒稽古を通じて心身を鍛え、剣道の技術を磨くとともに異年齢の仲間作りを促進し、自発的な活動意欲を高める。	中学生 高校生	12月24日～27日	継続	自然条件の厳しい冬に実施することで心身鍛練の効果は大きく、県内の剣道を愛好する青年に交流の場を提供する。	395/350	81%	
	冬に鍛える 武道のつどい (弓道)	寒稽古を通じて心身を鍛え、弓道の技術を磨くとともに異年齢の仲間づくりを促進し、自発的な活動意欲を高める。	高校生	1月4日～6日	継続	自然条件の厳しい冬に実施することで心身鍛練の効果は大きく、県内の弓道を愛好する青年に交流の場を提供する。	419/350	97%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表3 地域の中核施設としての事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日（期間）	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
淡路	うずしお交友塾 リーダー 養成セミナー	子どもたちの現状、うずしお 交遊塾の意義などの共有化を 通してうずしお交遊塾のリー ダーの養成を図る。	高校生 社会人	10月26日～27日	継続	地域のボランティア交流と、うずしお交遊塾に 向けた研修の場であり、地域の教育力の強化に 貢献する。	25/20	94%	共催 南淡町教育委員 会・南淡町地域 活性化センター
	2002年あわじ 青年の家まつり	青年の家を開放し、野外活 動、スポーツ活動、文化活動 等を通して、参加者相互の交 流や地域と青年の家との連携 を深める。	一般	11月2日・3日	継続	施設を開放することにより、地域の住民に施設 の理解を深めるとともに、地域の住民の交流を 図る。	7058/5000	85%	
	通学合宿 「うずしお 交遊塾」	異年齢の子どもたちが共同生 活を体験することにより、望 ましい人間関係や自主・自立 の精神を養う機会を提供す る。	南淡町の 小中学生	11月9日～17日	継続	現代の子どもたちに欠けている自主・自立の精 神を養う。	59/50	85%	共催 南淡町教育委員 会・南淡町地域 活性化センター
三瓶	第9回三瓶杯 ペタンク大会	ペタンク競技を通じた世代間 の交流とペタンク競技の普及 振興と技術の向上を図る。	全 世 代	6月29日～30日	継続	ペタンクというスポーツを広く紹介することで 同競技振興に貢献するとともに、世代を超えた 愛好者の交流の場を提供する。	237/200	100%	
	地域を生かす 発信ネット ワークin三瓶	地域の障害児とその家族・指 導者を対象とし、ボランティ アも参加して、自然体験活動 等を行う。その活動のなか で、自分を見つめるととも に、人との触れ合いの中か ら、自身の生活力を高める。	障害を持つ 子どもと家 族指導者・ 高校生・大 学生・青年	7月27日～28日	継続	青年や社会人の人間的な交流がますます希薄化 しつつあると言われる現代社会において、本事 業を継続・発展させることによって、本所が地 域のネットワーク作りの拠点として人と人との 交流促進に寄与する。	74/60	100%	
		地域に根ざして生活する青 年・社会人を対象とし、レク リエーションの指導技術の向 上と参加者の交流を行う。地 域活動のレクリエーションの 指導者として活動しう意識 や態度を育成する。	青年 社会人	10月26日～27日	新規	地域で活動する青年・社会人に、地域の要請が 高いレクリエーションの指導技術を学ぶ機会を 提供する。	59/40	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表3 地域の中核施設としての事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規継続の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
三瓶	さんべ祭	国立三瓶青年の家を地域の人々に開放し、文化・芸術・体育・スポーツ活動等を行い、世代間交流や広域的な地域交流と地域活性化を図る“親しみある青年の家”として、広く地域住民の意識への定着を図る。	全世代	10月12日～13日	継続	施設開放事業として国立三瓶青年の家を広く紹介するとともに、地元で活躍する諸団体の活動の場としての認知を広める。また、三瓶の豊かな自然のなかで、自分の興味・関心があるものに触れ、感覚を磨き、感性を伸ばす機会を提供する。	15927 /15000	100%	
	第10回三瓶高原ゲートボール大会	ゲートボール競技を通じた世代間の交流とゲートボール競技の普及・振興と技術の向上を図る。	全世代	10月18日～19日	継続	ゲートボールというスポーツを広く紹介することで同競技振興に貢献するとともに、世代を超えた愛好者の交流の場を提供する。	305/400	100%	
江田島	キャンプ指導者養成講座 ① ② ③	野外活動に関心をもつ青年が、必要な知識・技術について研修し、指導力・実践力の向上を図る。	青年 (高校生を除く)	①5月18日 ～19日 ②6月15日 ～16日 ③6月29日 ～30日	継続	自然体験活動の指導者養成・研修等の必要性に応じるために実施する。日本の子どもの心を育むために必要とされる生活体験・自然体験の指導者を養成し、子どもの心の豊かさを育てることに寄与する。	① 31/50 ② 30/50 ③ 31/50	①～③ 100%	共催 広島県キャンプ協会
	フェスティバル 江田島	江田島町と近隣の市町の人々が、国立江田島青年の家等の施設を利用して、教育・文化・スポーツ等の多彩な活動を展開し、ふるさとの自然・文化・産業への関心を高め、島おこし・まちづくりに資する。	近隣市町 及び地元 住民	10月19日～20日	継続	江田島町と江田島青年の家が連携して事業を展開することにより、地元の江田島町の中核施設としての役割を担うとともに、島おこしやまちづくりに寄与する。	5990/6000	97%	共催 江田島町・江田島町教育委員会・海上自衛隊第1術科学校
大洲	教員を志す青年の交流会	教員を目指す青年に役立つ生きたプログラムや教員養成のための実利的な研修機会の提供を目的として、実際の野外体験活動の指導を通して、教員を志す上で必要な知識や態度を身につける。	教員を志す 大学生・社会人及び 小学校4年生から 中学校3年生までの 児童生徒	8月4日～7日	継続	学校と連携して自然体験活動等の機会を提供する必要性があり、教員を志す青年が自然体験活動についての識見を養う機会を提供する。	17/40	83%	共催 愛媛大学
	青年の家フェスティバル	地域に開かれた青年の家を目指し、文化活動の発表・展示、催し物及びスポーツ大会等を通して、地域住民との交流を図る。	地域住民	3月8日～9日	継続	施設の存在を地域住民に知らせ、地域に根ざした青年の家の役割を果たす。	2043/4000	99%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表3 地域の中核施設としての事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日（期間）	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
阿蘇	阿蘇フォーラム まるごと フェスタ	阿蘇における環境保全や文化の継承について、今抱えている様々な問題の解決に向けて、共通のビジョンを探るとともに、今後に向けて、持続可能な環境モデル地域を目指す。	制限なし	11月30日 ～12月1日	継続	関係機関、地域各種団体、NPO、草の根団体、女性団体等のネットワーク構築の支援組織として「阿蘇フォーラム」を設立し、多様な地域振興事業を展開して地域に大きく貢献する。	1312/300	91%	共催 阿蘇フォーラム 実行委員会
沖縄	青年の家まつり	生涯学習の場としての青年の家の活動について理解を深めるとともに、地域との連携を深める。	渡嘉敷村民 および一般	7月26日～27日	継続	生涯学習の啓蒙・発展のために地域と連携した事業であり、社会教育施設への理解促進に貢献する。	1251/1000	100%	共催 渡嘉敷村
	鯨海峡セカンド スクール	学社融合事業の一環として、総合的な学習の視点を踏まえ、小・中学生を、日常の家庭生活とは異なる集団生活を体験させ、家庭や親の大切さを認識させるとともに、自主・自律・友情・信頼等の態度を養う。	小・中学生	11月12日～15日	継続	学校を離れ、多くの生活体験や特設の事業を行うことにより、自立心を涵養し、幅広い学習活動を推進する。	77/50	95%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表4 国の施策を具体化する事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
大雪	ゆーすびあ 環境学習 セミナー	環境問題をテーマにした保護活動や調査活動及びフォーラムを通して、環境問題を身近な問題としてとらえ学習する機会とする。	高校生 学生 一般	6月15日～16日	継続	地球規模のテーマである環境問題は、現代的課題の中でも最も人々の関心が高く、緊急性があり、身近な問題として学ぶ機会を提供する。	20/30	100%	
	ふれあい マイプラン	青年の家の施設・設備、教育機能を活用した独創的なプログラムの企画、運営を通して、参加者相互の交流を図り、自主・自律の心を育む機会とする。	学生 一般	8月29日 ～9月1日	継続	「与えられたプログラムに参加するのではなく、参加者が自らプログラムを作り、活動を楽しむ」ことを通して、青年の自主性や創造性を育むと同時に、新たな青年の家の利用スタイルを見いだす。	16/20	100%	
岩手山	ハイスクール ボランティア inテンパーク	チャレンジド(障害者等)との交流を通して、ボランティア活動の必要性を理解するとともに、その基本を学ぶ。	高校生	8月11日～13日	継続	ボランティア活動は社会的に広く浸透してきており、活動に携わっている高校生も多くなってきた。従って、東北地区全域の高校生にボランティアの機会を提供し、互恵の精神を育むことに寄与する。	106/100	93%	
	カンガルー キャンプ	引きこもりがちな青年が、自然体験やグループワークを通して、自主性、社会性を育み、心身ともに健康な生活ができるようなきっかけをつかむ。	引きこもり がちな青年	① 8月31日 ～9月13日 ②11月26日 ～28日	継続	「引きこもり」に対する支援体制作りが社会的に求められる中、国立の青少年教育施設である岩手山青年の家は、それに取り組む使命があると考え、悩みを抱える青少年を対象とした体験活動推進に寄与する。	6/10	100%	
磐梯	通学キャンプ	青年の家での集団宿泊生活や様々な体験活動を通して、自立的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。ボランティアが子どもたちの活動を支援することを通して、青年の人間的成長を図る。	猪苗代町内の 小学校に通う4～6 年生 青年	11月10日 ～15日	継続	ボランティア活動は、新学習指導要領に沿った体験活動の一環でもある社会奉仕活動につながり、青少年の健全育成に貢献する。	95/100	83%	
	冒険キャンプ	自然の中での冒険体験を通して、自然の中にある危険を主体的に判断してたくましく生きる力を養う。	青年	8月1日～4日	新規	自然の中で冒険活動を体験することを通して「生きる力」を育む。	19/20	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表4 国の施策を具体化する事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規継続の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
能登	サイエンス・セミナー ～電気と磁力とエネルギー～	科学博物館の研究員による先導的な科学教育プログラムを体験することにより、科学の面白さに触れ、探究心を養う。	青少年・一般・学校教育関係者	8月23日～25日	継続	近年青少年ばかりではなく、大人の科学離れも指摘されており、科学教育の振興を図る。	49/50	100%	共催 国立科学博物館
	心も体もリフレッシュ	野外体験活動を通して、不登校児童・生徒の変容を見つめるとともに、保護者・担任・相談員が問題解決に向けて糸口を探る。	不登校児童・生徒とその家族・担任及び相談員	8月28日～30日	継続	不登校問題は年々深刻化しており、適応指導教室に青年の家活動プログラムを提供することで、問題解決に貢献する。	25/50	100%	
	教職をめざすユースセミナー	教職を志す青年が、野外活動を通じて児童・生徒とのふれあいを深め、考えや行動を理解するとともに、教師となる資質を高める。	教職を志す青年	9月18日～20日	継続	大学生インターンシップとして、野外活動の中で学校を離れた児童・生徒の変容を探る機会を提供する。	24/20	96%	
	石川インターナショナルスクール2003	高校生と外国人教師や留学生が、意見交換や発表会を通してお互いの文化を理解し、国際化時代を生きる資質を高める。	高校生・留学生・外国人教師	2月1日～2日	継続	より高度で複雑なこれからの国際化社会を生きる青年の育成を図り、国際理解の推進に寄与する。	88/100	85%	共催 石川県高等学校国際教育研究協議会
乗鞍	第4回乗鞍公開セミナー ＝「総合的な学習の時間」における評価の在り方を探る＝	自然体験活動を取り入れた「総合的な学習の時間」、又は「各教科」において児童・生徒の変容をみる評価の観点から「生きる力」を構成する指標から探り、自然体験活動における危険予知・防止(K・Y・T)を含んだ体験学習法を学ぶきっかけとする。	小・中・高等学校教員	6月10日～11日	継続	小・中学校で「総合的な学習の時間」が完全実施され、高等学校ではこれから実施される状況で、現場ではまだまだ課題がある。特に評価の問題は各学校で大きな課題であり、指導者間の情報交換等の場を提供し、問題解決に貢献する。	25/30	100%	
	ファミリーディ 家族の役割を 考えようー	ファミリーでの体験活動を通じて、親と子の協力や夫婦間のコミュニケーションのあり方を考え、よりよい家庭の構築を目指して実践しようとする意識を育て、よりよい男女共同参画社会の実現を目指して個々の立場で実践しようとする意識の啓発を行う。	青少年一般	9月14日	継続	昨年までは高山市との共催で実施し、本年度は独自のねらいでプログラムの展開で実施することで、効果の高い男女共同参画社会の実現を支援する。	17/30	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表4 国の施策を具体化する事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
乗鞍	第4回乗鞍環境 フォーラム ―超自然語 入門講座―	自然の中へ自らの足を運び、 乗鞍の自然が奏でる「力」 「音」「ここちよさ」の本物 にふれることにより、自然と 人とのつきあい方を学び、環 境の中で生きることをふりか えるきっかけとする。	青年 一般 少年	11月3日～4日	継続	昨年よりフォーラム形式にこだわらない参加体 験型で実施し高い評価を得た。さらに閑散期の 施設利用促進のため初冬の事業を企画・実施す ることで、多くの青年の育成に寄与する。	28/30	100%	
中央	富士のさと エコロジー実践 セミナー	富士山麓での様々な体験プロ グラムを通して人と人、人と 自然の関わりについて気づ き、環境と共生したよりよい 「生き方・暮らし方」に向け て行動できる機会とする。	15～30歳 中学生 は除く	8月22日～25日	継続	青少年の体験不足や環境教育への関心の高まり などから、体験型の環境教育が必要である。ま た、民間野外教育団体の協力を得て、その手法 を学び、実践を通して教育力の向上を図る。	19/20	100%	
	感性を育てる 日本文化 セミナー	日本が誇るべき文化でもある 「ものづくり」によって、青 少年が創造する楽しさや満足 感を味わい、体験的に学ぶ中 から将来の自分を考える機会 とする。	中学2年生 以上	1月18日～19日 2月15日～16日	継続	体験を通して幅広い職業観を育成することは、 青年に社会の一員として、社会参画や社会貢献 の意識を高めることに寄与する。	18/40	100%	
淡路	環境教育 セミナー	個々の生活・自然観を問い直 すワークショップを通して、 これから環境教育を志す者の 基本的な視点の形成を図る。	社会教育指 導者・教 員・社会 人・大学生	1月24日～26日	継続	環境問題に関しての意識を高めるとともに、環 境保全に積極的に取り組む人材を育てる。	20/30	100%	
	通勤合宿	青年が、昼は職場で働き、夜 は青年の家を学習・生活の拠 点としながら、男女が多様な 役割を担い自らの人生を主体 的に選択し展開していく能力 の育成を図る。	青年	2月27日 ～3月 2日	継続	地域の若者が合宿を通して共に学び、人生を主 体的に生きる能力の育成を図るとともに、地域 の活性化に役立つ若者を育てる。	21/20	89%	
三瓶	総合的学習事業	2003年から実施される 「総合的な学習の時間」に向 けて、近隣の高等学校と連携 して、宿泊を伴う利用による プログラムの開発・実施を行 う。	高 校 生	①7月 9日 ～10日 ②9月17日 ～18日	継続	地域社会と学校が相互に協力して教育力を高 め、ふるさとの良さを再認識し、自ら課題を設 けて行う学習や将来の生き方を考える学習を展 開し、「生きる力」を育成する。	169/160	83%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表4 国の施策を具体化する事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
三瓶	野外体験 キャンプin三瓶 2002	長期野外体験活動を通して、 青少年の自主的な活動意欲と 行動力を育成し、実体験や人 との交流を通して、心のたく ましさ・やさしさを醸成す る。	高 校 生 大 学 生 青 年 (小・中学 生)	8月4日～10日	継続	集団宿泊生活を通じて、さまざまな自然体験、 人間関係づくりの醸成を行い、青少年の自発的 な活動意欲と行動力を磨くとともに、心のたく ましさ、やさしさを育成していくこの事業は、 「生きる力」を育むことに貢献する。	41/40	100%	
江田島	「喘息やアレルギーなどの子どもための体験 活動推進事業」 アスピリット 事業 ①セミナー	喘息やアレルギーなどに悩む 子どもやその家族が、安心して 自然に触れたり、共同生活 をすることなどができる体験 活動の場を積極的かつ効果的 に提供し、体力を高めたり心 を開放したりすることのでき る新たな事業を開発する。	保護者 青年等	6月23日	継続	生活環境の変化に伴い、喘息やアトピー性皮膚 炎、食物アレルギー、アレルギー性鼻炎、花粉 症など免疫機能の低下による疾病が増加傾向に ある。これらの疾病に悩む青少年は、家庭生活 や学校生活、社会生活の中で様々な制約を受け ることから、医療体制や指導体制を整え、自然 体験や生活体験などができる機会を積極的かつ 効果的に提供し、体力を高め、心を開放し、自 分に自信を持って疾病に立ち向かおうとする意 欲を高める機会を提供する。	57/100	100%	
	「喘息やアレルギーなどの子どもための体験 活動推進事業」 アスピリット 事業 ② ③ ④ ⑤		喘息やアレ ルギーなど に悩む子ど も(6才～ 18才くら い)、 その家族	② 7月13日 ～14日 ③ 9月 7日 ～ 8日 ④11月16日 ～17日 ⑤12月 7日 ～ 8日	継続		上:参加者 下:家 族 ② 23/30 29/50 ③ 16/30 16/50 ④ 15/30 18/50 ⑤ 13/30 12/50	②～⑤ 参加者 100% 保護者 100%	
大洲	おおずふれあい スクール	大洲青年の家のフィールド・ 人材・設備を活用して、自然 体験活動等の社会教育を通し て、親子及び仲間とのふれあ いを体験させ、自発性や積極 性・協調性・社会性を高め、 自立を促し、集団生活への適 応能力の向上を図り、「生き る力」や「社会性」を養うと ともに、自己の存在感を実感 させ、精神的に安心できる心 の居場所の提供を行う。併せ て、不登校児童・生徒及び引 きこもり青年の発生原因の究 明及び改善のための調査研究 を行う。	心理的・情 緒的理由に よる不登校 児童・生徒 (不登校傾 向も含む) 及び引きこ もりがちな 青年	①4月8日 ～7月18日 ②9月2日 ～12月19日 ③1月8日 ～3月19日	継続	年々増加している不登校児童・生徒及び引きこ もり青年の問題は深刻であるが、エリア内には これらに対応できる施設が少なく、緊急性・必 要性がある。	17/15	100%	共催 大洲市教育委員 会・大洲保健所

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表4 国の施策を具体化する事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規継続の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
大洲	環境教育企画 セミナー	環境教育の企画・運営に必要な知識や技術を学び、「総合的な学習の時間」に対応した環境学習プログラムの在り方を考える。また、全国で展開中の環境教育推進事業との連携も図る。	環境教育に関心のある教職員、グループ・サークル等の指導者	6月13日～15日	継続	持続可能な社会の実現をめざした環境教育・環境学習の推進に貢献する。特に、平成15年度から本格実施される「総合的な学習の時間」に対応すべく、学習活動を支援することで、青年教育の振興に寄与する。	13/20	100%	
	いきいき 野外体験 ～自分探しの わくわく キャンプ～	不登校傾向の児童生徒及び引きこもりがちな青年が、大自然の中で野外活動を通じてストレスを解消し、自己の可能性を信じて様々な人との出会いを大切に、自分らしい生き方を発見できる「自分探しのキャンプ」を目指す。	不登校傾向 生徒及び引 きこもりが ちな青年	9月24日～26日	新規	不登校傾向の児童・生徒も依然として増加している中で、その延長線として引きこもり青年の増加が社会問題となっており、学校復帰、社会復帰のきっかけとして、宿泊を伴う自然体験活動の機会を提供する。	10/15	100%	
	Hand in Hand	日本の高校生と在日外国人が、日本の伝統文化を体験して日本の歴史や文化を理解するとともに、日本と外国の歴史や文化の違いについて理解を深めることを通して参加者相互の交流を図る。	高校生・留 学生及び A E T	12月7日～8日	継続	各地域・団体で国際交流の事業は行われているが、これからの世界を支える中学生・高校生・大学生を対象とした事業は少ない。また、彼らが外国文化に触れ、理解し、尊重する態度は、日本人同士が生活し、暮らしていく上でも求められることであるが、その基礎として日本の文化・歴史に触れ、理解する機会を提供する。	63/30	95%	
阿蘇	ふれあい親子 キャンプ～母と 子のキャンプ～	親子でキャンプを体験し、自然体験や生活体験を通して、親子及び参加家族間のふれあいや交流を深めるとともに家庭教育の支援の場とする。	母親と 子ども	7月13日～14日	新規	母子家庭への家庭教育支援事業として、家庭教育と地域・社会教育の連携体制の構築モデルとして、教育力向上に貢献する。	31/30	100%	共催 財団法人青少年 野外教育振興財 団・日本エスコ フィエ協会
沖縄	親子アウトドア 教室	自然体験や協力し合うキャンプ生活を通して、親子の絆を深める。また、工夫する体験を通して生きる力を育む。	小学生と その家族	5月11日～12日	継続	家庭教育を支援し、家族の自然体験を行い、併せて家族間の交流を図る。	126/100	98%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表5 関係機関との連携事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日（期間）	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
磐梯	福島大学 フレンドシップ 事業	自然体験活動や集団宿泊生活を通して、人間関係を深める。自然体験学校の企画・運営を通して、教員として必要な指導力の基礎を身につける。	小・中学校 教員、を 目指す大学生	7月23日～25日	継続	自然体験を媒体として実際の活動を子どもとともに体験することは、今後の教職を目指す学生に、学校を離れた児童・生徒の変容を探る機会を提供する。	219/200	91%	共催 福島大学
	磐梯パノラマ へのいざない	自然体験活動を通して、自然の理解を深め参加者相互の交流を図る。	放送大学の 面接事業に 参加する青 年等	8月 8日～ 9日 8月17日～18日	継続	放送大学の面接授業を青年の家で実施することで、学社融合の促進に貢献する。	83/130	99%	共催 放送大学
	スノーワールド	冬期の野外活動を通して冬の自然を味わうとともに、国外青年を含む参加青年等が交流を図り異文化理解を深める。	青年等	2月21日～23日	継続	学社融合の促進に貢献するとともに、雪上という一種非日常的な空間で活動を行うことで、自然環境や国際交流といったグローバルな視野をもった青年の育成に寄与する。	97/100	99%	共催 放送大学 東北大学
赤城	国際サマー キャンプ	群馬県の県立高等学校の生徒を対象に、国際化に対応したプログラムを体験する宿泊研修を実施し、英語等を活用した積極的なコミュニケーションを通して、参加生徒同士や生徒とA.L.T.との交流を深め、異文化を理解する態度を育てるなど国際理解教育の推進を図る。	群馬県立高 等学校生 及び教員	8月21日～23日	継続	国際理解教育に特に力を入れている群馬県教育委員会との共催で行っており、現代的な課題である「国際交流等で国際理解を深める事業」として、青年の国際化に寄与する。	96/70	100%	共催 群馬県教育委員 会
能登	LET'S ENJOY BRASSBAND	吹奏楽部のリーダーとしての役割や自主的かつ効果的な練習方法、運営方法を研修することにより、県内吹奏楽の水準の向上を図る。	高校生 (管楽器・ 打楽器 経験者)	11月5日～6日	継続	高等学校における文化部の施設利用促進と青年層リーダー研修の在り方についての調査研究・推進・普及に寄与する。	190/120	89%	共催 石川県高等学校 文化連盟吹奏楽 部
	剣士がつどう 眉丈台	剣道の修練に励む青少年が一同に会し、参加者相互の交流を深めるとともに、基礎的な技術の向上を図る。	剣道を愛好 する青少年	11月16日～17日	継続	剣道を通して日本古来の文化である礼儀作法・不屈の精神の修得を目指し、併せて施設利用を助長・推進をする。	190/150	85%	共催 羽咋郡市剣道連 盟
	なぎなたで 寒風をきる	団体間交流や異年齢交流を促すことで、団体活動を助長推進するとともに、生涯スポーツの振興を図る。	なぎなたを 愛好する青 少年	2月15日～16日	継続	近年の礼節を軽視する社会傾向の中、武道であるなぎなたを通じて異年齢交流の場を設け、礼節の重要性を再認識する機会を提供する。	104/70	90%	共催 石川県なぎなた 連盟

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表5 関係機関との連携事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
乗鞍	森のふれあい学 習のりくら -高山セカンド スクール-	家庭を離れた共同生活を通して、自己の生活との対峙、仲間・異年齢の人々を見つめる機会などを通し、自主性・社会性を養い自立を促す。また、乗鞍高原の自然を生かした総合的学習の実践の場を提供する。	高山市内小 学校	① 8月 6日 ～ 8日 ② 9月23日 ～28日 ③10月 7日 ～12日	継続	市内小学校5年生を中心とした宿泊学習に青少年教育施設指導者養成セミナーの参加者が係わり、指導の実践の場を提供する。	650/650	100%	
淡路	淡路生涯学習 フォーラム	生涯学習社会を構築するための具体的手法や先行事例を紹介しながら、地域における生涯学習の在り方について学習する機会を提供する。	社会教育指 導者・学校 教育関係 者・及び社 会人	9月11日	継続	地域において社会教育関係者や学校関係者に研修を受ける機会を提供し、地域の生涯学習の推進を図る。	147/150	73%	共催 淡路教育事務 所・淡路教育事 務連絡協議会
阿蘇	ジョイント カレッジ i n A S O	大学と連携を図りながら、社会教育を専攻する学生と社会教育関係職員等に、理論的かつ実践的な学習の場と機会を提供し、社会教育における現代的課題（環境教育）についての理解と事業企画等に関する能力と資質を養う。	学生・社会 教育関係 者・教育委 員会職員 ・大学関係 職員	8月30日～9月2日	継続	本事業を大学の授業として取り扱ったり、大学の単位として認定するなど、大学との連携による特色ある事業であり、環境を専攻する学生と社会教育指導者が共に学びあう機会を提供する。	38/40	100%	共催 松山東雲女子大 学・福岡教育大 学・日本文理大 学
沖縄	カヌーフェスタ i n とかしき	カヌーでのツーリングやレース等を通して、海の素晴らしさや環境についての理解を深め、マリンスポーツの安全と普及・活性化を図る。	マリンス ポーツに興 味のある方	10月26日～27日	継続	カヌー体験を通して、慶良間の豊かな海を体験し、自然と人間の関わりについて理解を深めることに寄与する。	49/30	100%	
	「総合的な学習 の時間」に関す る指導者講習会	児童・生徒が心豊かにたくましく生きる力を育むために、新学習指導要領に基づく「総合的な学習の時間」の実践的な指導力の向上を図る。	教職員・教 育関係者及 び教職員を 志す者	1月21日	新規	新しい教育課程の課題であると思われる事柄について学習・情報交換をし、ネットワーク形成のきっかけを提供することで、青年教育活動の充実に貢献する。	574/200	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表6 学校週5日制対応事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
磐梯	部活・生徒会 サポート	学校が休みとなる土日に話し合いや運動などの参加者の自主的な活動を行うことを通して、人間関係や社会性を育てる一助とする。	青年等	11月～12月	新規	学校週5日制の導入にともない、学校外での生活体験や自然体験の充実が求められており、体験活動の機会を提供し青年教育に寄与する。	180/200	87%	
赤城	ワークキャンプ inあかぎ ～ツリーハウス づくり～ ① ② ③	新設されたキャンプ場に、シンボルとなるツリーハウスを設置する。数回にわたる協働の作業を通して、青年の家と参加者、また参加者相互の交流を図り、キャンプ場の利用可能を拡大していく。	高校生 青年 一般	①11月15日 ～17日 ②1月 31日 ～2月2日 ③2月 21日 ～23日	新規	ツリーハウスづくりによる協働作業を通して、青年相互の交流を図り、連帯感等を養う。併せて新設されたキャンプ場の利用及び活用を拡大する。	① 13/20 ② 14/20 ③ 14/20	①～③ 100%	
	あったかぞく ～挑戦～	家族を対象として、自然・文化・スポーツ活動、宿泊体験等を行うことで、家族・親子のふれあいや絆を深めるとともに参加家族相互の交流を図る。青年は、家族の活動の支援を行うことで、ボランティアとしての知識・技術・心構えを身につける。	小学生以上 の子ども いる 家族・青年	3月21日～23日	継続	13年度から開始した事業であり、参加者を広範囲から集め、家族の輪を広げ、そのことにより、子どもたちの自主性・積極性・協調性を向上させることができる。また、この事業に関わるボランティアの活躍する場を多くすることにより、資質向上の機会を提供する。	41/80	100%	
能登	野外活動 ボランティア 養成セミナー	野外活動の企画の体験を通して、ボランティア活動に必要な知識・技術の向上を図り、ボランティア活動のリーダーとなる資質を高める。	青年 (高校生 以上)	6月8日～9日	継続	現代の青年にボランティアや勤労体験の不足が叫ばれている今日、色々な機会を捉えて体験を積む機会を提供する。	16/30	88%	
	親子 リフレッシュ ①ファミリー キャンプ ②ファミリー フィッシング	野外活動を通して親子のふれあいや絆を深め、家族間の交流を図るとともに、自然の力の偉大さ・大切さに触れ、環境保護への意識を高める。	家族	① 9月 7日 ～ 8日 ②10月12日 ～13日	継続	親子のふれあいが希薄になりつつある近年、気軽に野外で自然に親しみ、親子の絆を強くことを支援する。	50/50	96%	
	年賀状に挑戦!	地域の文化芸術関係団体と共同し、地域活動の活性化を図るとともに、青少年の伝統や文化を大切にすることを養う。	青少年 一般	11月23日～24日	継続	コンピュータによる年賀状作りが主流になっている今日、手作り年賀状づくりを通して情操面の育成に寄与する。	100/100	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表6 学校週5日制対応事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
能登	スノー パラダイス	県内青少年教育施設との連携の下に、ウィンタースポーツプログラムの普及を図り、青年層の生涯スポーツへの参加を促す。	高校生以上	2月8日～9日	新規	社会体育を含めた青年層の社会教育活動参加の停滞など、現代的な課題への取り組みを助長・推進する。	29/30	100%	
乗鞍	乗鞍で遊ぼう ①森で遊ぶ ②飛騨を知る ③冬に遊ぶ	キャンプ体験を親子で行うことを通して、家族の絆を深め、参加者相互の交流を図る。ボランティアの企画・運営力を高め、青年リーダーを育成する。	家族 親子	① 7月20日 ～21日 ②12月 7日 ～ 8日 ③ 3月 1日 ～ 2日	継続	青年リーダーの企画運営力を高め、青年の健全育成を図る。また、野外活動の基本を家族が体験を通して身につけ、家族の絆を深めることに貢献する。	① 67/30 ② 47/30 ③ 72/30	①～③ 100%	
中央	ノビノビ ホリデー ①ネーチャ ーゲーム ②ファミリー キャンプ ③紅葉 ハイキング ④クラフト体験	親子が家庭では経験できない様々な共同体験を通して、お互いが尊重し合い、家庭の大切さに気づく機会を提供する。	児童生徒と その家族	① 5月25日 ～26日 ② 9月14日 ～15日 ③11月 2日 ～ 3日 ④12月 7日 ～ 8日	① ② ③ 継続 ④ 新規	学校週5日制の導入による学校外活動の場を提供すると同時に、家庭教育支援の一環として地域教育力の向上に寄与する。	① 31/40 ② 39/40 ③ 36/40 ④ 32/40	①～④ 100%	
淡路	高校生のための ボランティア 活動セミナー	ボランティア活動の基礎的な理論と技術について学習する機会を提供し、高校生の社会参加の推進を図る。	高校生	6月14日～16日	継続	ワークショップを通して基礎的な理論と技術を学び、高校生自らが積極的にボランティアに関わることで社会参加の推進を図る。	68/80	97%	
三瓶	地域の教育力 高揚事業	共同体験を通して、子どもの自発性・自立性を喚起し、「生きる力」の育成に努める。各種の体験活動を通して、親や地域の大人が地域活動の支援者(自然発生的な指導者やコーディネーター、ボランティア)として活動しうる意識や態度を育成する。さらに地域活動支援者の資質の向上を図ることで、地域の教育力を高める。	全世代	① 5月11日 ～12日 ② 9月21日 ～22日	継続	平成14年度から実施されている学校週5日制の対応事業のひとつとして、学校休業日に施設の機能や地域の特性を生かした多様な親子での体験活動を通して、お互いを理解し合い家族の絆を更に深める機会を提供する。	61/60	100%	
	歩くスキー フェスティバル	三瓶山麓をフィールドとして、歩くスキーにより、冬の自然観察等を行う、またスポーツとしての歩くスキーを家族・友人達と体験することにより、様々な交流活動を行う。	全世代	1月25日～26日	継続	学校週5日制の導入に伴い、学校外での自然体験活動の機会を提供し青年教育に寄与すると同時に、スポーツ・レクリエーションを通した生涯スポーツ振興に貢献する。	107/150	98%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表6 学校週5日制対応事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
三瓶	スポーツの集い	地域からの要請あるスポーツ種目について、指導者の指導意欲と技術の向上を図るとともに、中学生の技能や競技マナーの向上を目指して合同練習を行う。	指導者 (中学生)	1月25日～26日	継続	地域のスポーツ指導者および中学生が集い交流することで、指導者の資質向上やネットワークの構築に寄与する。	54/50	97%	
	音楽クリニック	音楽を愛好する青少年が集い、音楽を楽しみながら技術の向上を図り、参加者相互の交流を深める。	高校生 中学生	3月8日～9日	継続	プロの演奏家より直接、指導して貰う機会は地方の生徒にとっては貴重なものであり、演奏技術の向上だけでなく、演奏家の音楽に対する考え方や感性を育成する。	225/80	86%	
江田島	レッツ・エン ジョイ・イン えたじま ① ② ③ ④	国立江田島青年の家の施設ボランティアが、学校週5日制に伴う土曜日の小・中・高校生の過ごし方を企画・運営することで、ボランティアとしての資質や指導力及び実践力を高める。	青年(施設 ボランティア)・小学 4年生以上・中学 生・高校生	① 5月11日 ～12日 ② 11月23日 ～24日 ③ 2月15日 ～16日 ④ 3月15日 ～16日	新規	スタッフの養成では、青年の社会活動参加促進、学校週5日制への対応などの社会的ニーズの高まりを受け、青年ボランティアの活動の機会提供、青少年活動のリーダー育成を支援する。また、子どもたちへは、中央教育審議会答申や青少年の生活と意識に関する基本調査報告書、世界青年意識調査報告書等から、現代の子どもたちに欠けているとされる力をつけることができる体験活動を提供する。	上: 青 年 下: 参加者 ① 13/15 29/30 ② 15/15 16/30 ③ 14/15 61/30 ④ 10/15 18/30	①②④ 100% ③ 98%	
	青年ボランティ アグループ 「カッターズ」 ①春キャンプ ②夏キャンプ ③秋キャンプ ④冬キャンプ	国立江田島青年の家で継続的に活動している青年ボランティア・グループ「カッターズ」が、少年を対象に企画・運営するキャンプを実施し、野外活動に関して実践的に研修することで、指導力・実践力の向上を図る。	小学4年生 以上中学生 生・高校生	① 6月 8日 ～6月9日 ② 8月23日 ～26日 ③ 10月26日 ～27日 ④ 12月25日 ～27日	継続	青年の社会活動への参加の促進、学校週5日制への対応などの社会的ニーズの高まりを受け、青年ボランティア活動への支援、青少年活動のリーダー育成、子どもたちの社会性の育成及び体験活動の機会を提供する。	① 67/80 ② 52/90 ③ 72/90 ④ 88/90	①～④ 100%	
	オリンピック 巡回事業	陸上競技の日本を代表するオリンピック選手(オリンピック)を招き、地域の青少年へのスポーツの技術指導等を通して、心身の健全な育成を図るとともに、オリンピックへの理解を深める。	青少年・ スポーツ指 導者	2月8日～9日	新規	日本オリンピック委員会と共催した事業であり、日本を代表するオリンピック出場経験者(オリンピック)を招き、地域の青少年へのスポーツ技術の指導とオリンピックによる講演を通して青少年の心身の健全な育成、スポーツ技術の向上を図るとともに、オリンピックへの理解を推進する。	108/200	92%	共催 (財)日本オリ ンピック委員会
大洲	ドラマティック カヌー ー1日体験 コースー	自然の中でのカヌー体験を通して、親子・友達がふれあいを深めるとともに、豊かな心の育成を図る。	小学5年生 以上	6月23日 7月14日 9月15日 10月20日	新規	平成14年度から完全実施された学校週5日制が子どもたちにとって本当に有意義なものになるために、豊富な自然体験、生活体験等を経験させることで子どもたちの豊かな心やたくましさなどの「生きる力」を育成する。	104/160	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表7 青年教育指導者、施設職員を対象にした研修事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
大雪	利用団体担当者 セミナー	青年の家のシステムや利用方法、施設のエデュケーション機能について理解を図るとともに、プログラムの企画・立案・展開の方法を学ぶ。	利用団体担 当者	① 4月 17日, 18日,19日 ② 5月 8日, 9日,10日 ③ 5月 29日, 30日,31日 ④ 6月 5日, 6日, 7日	継続	団体の担当者が青年の家の施設設備、教育機能、受入れシステム等を理解し、利用団体のねらい達成を支援する。	90/80	100%	
	青少年教育施設 職員研修会	北海道内の青年の家等青少年教育施設の指導系職員が一堂に会し、青少年教育施設の現状や今日的課題について研究協議を深め、施設職員としての資質の向上と相互の交流を図る機会とする。	青少年教育 施設職員	9月25日～26日	継続	社会の変化に的確に対応し、現代的課題、青年教育の課題解決のために、施設職員として常に資質の向上に努める。また、地域の中核施設として先導的な役割を果たす。	30/30	100%	共催 北海道青年の家 等連絡協議会
岩手山	冒険キャンプ in湯田・沢内	大自然の中で生活させることによって自然との共生、自然の持つ温もりを実感させるとともに、冒険的活動を通してチャレンジ精神を養う。さらに、この事業の企画・運営に携わることによってボランティアの育成と資質向上を図る。	小学5年 ～高校生	7月28日 ～8月4日	新規	便利な生活環境の中で過ごしている青少年に、自然との共生やチャレンジ精神を養う機会を提供する。更に、この事業を通して、ボランティアがファシリテーターとして力量を向上させるよう支援する。	28/28	93%	
	岩手県内青少年 集団宿泊 教育施設職員 合同研究会	岩手県内の青少年教育施設が当面する諸問題について共通理解を深めるとともに、今後の施設運営の充実と発展の方策について研究協議をする。	岩手県内青 少年・ 教育宿泊 施設職員	10月29日～30日	継続	ニーズにあった施設運営をめざすため、岩手県内の各青少年教育施設が抱える問題点について協議する場を提供し、青少年の健全な育成に貢献する。	53/30	100%	共催 岩手県内青少年 集団宿泊教育施 設連絡協議会
	東北地区青年の 家職員研修会	青年の豊かな人間性の育成をめざして、青年教育施設の直面する諸課題について研究協議を行うとともに、施設間相互の連携を深める。	東北地区青 年・教育施 設職員	12月3日～5日	継続	東北地区の青年の家に勤務する指導系の職員が、各々の専門的知識や技術を習得する機会を提供する。また、施設間の交流を図る。	30/30	100%	共催 東北地区青年の 家協議会

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表7 青年教育指導者、施設職員を対象にした研修事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
岩手山	青少年野外教育 企画セミナー	野外教育の企画等に携わる専門指導者を養成するための統一的な基準の基に研修事業を実施することにより、専門的な能力を持った指導者を確保し我が国における野外教育の資質向上を図る。	本セミナーのアクティビティデザインを修了または、修了見込みの者	12月20日～23日	新規	研修のためのフィールドが備わっている施設を生かし、野外教育の企画に携わる専門的指導者を育成する。	24/30	96%	
磐梯	自然体験リスク マネジメント セミナー	自然体験活動の各フィールドでの実践的な研修を通して、自然体験活動指導者の安全対策面での資質向上を図る。	機関・施設・団体等の自然体験活動指導者	10月22日～25日	新規	我が国における自然体験活動を振興するため、安全対策に関する専門的指導者を育成する。	40/40	100%	
磐梯	体験活動担当教員講習会 ＜東日本ブロック＞	学校教育における体験活動の一層の充実を図るため、体験活動の指導内容、実施上の配慮、施設の利用方法等について研究協議・情報交換を行い、体験活動担当教員の資質向上を図る。	東日本ブロック小・中学校教員	10月1日～4日	継続	学校教育に携わる教育関係者が体験活動に関する理解を深め、学校教育現場でキーパーソンになり、体験活動の学校教育現場への普及に貢献する。	71/70	99%	共催 文部科学省・独立行政法人教員 研修センター・国立青年の家本部
江田島	体験活動担当教員講習会 ＜西日本ブロック＞	新学習指導要領の実施に伴う学校教育における体験活動の一層の充実を図るため、体験活動の実践及び指導内容、実践上の配慮等について研究協議・情報交換を行い、体験活動担当教員の資質向上を図る。	小学校・中学校・高等学校等の体験活動担当教員、体験活動担当指導主事	10月29日 ～11月1日	継続	中央教育審議会答申「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」を受け、多様な体験活動の機会を充実させ、学校内外における奉仕活動・体験活動を推進するために、体験活動担当教員の資質の向上を図る。	53/70	100%	
赤城	プロジェクト・アドベンチャー 指導者養成 セミナー	他人や自己の「気づき」を、青少年が体験的、効果的に学ぶための手法であるプロジェクトアドベンチャーを、学校教育、青少年教育、地域活動等の指導者が体験し、指導者としての資質を向上させることで、青少年の「心の教育」の推進を図る。	教職員・青少年教育施設職員・青少年団体指導者・青少年の研修担当者等	①5月17日 ～19日 ②7月 5日 ～ 7日	新規	青少年が他人や自己について正しく認識し、コミュニケーションの能力を向上させることが求められており、その問題を解決していく体験を提供し、指導者を養成する。	① 20/20 ② 23/20	①② 100%	
	体験を通じた 科学教育 「GEMS」 ～理科離れ・数学嫌いを吹き飛ばせ～	理科離れや数学嫌いを解消するために、体験学習法の理論に基づくアクティビティを通じて、楽しみながら理科や数学の基礎学力を身につけるとともに想像力や自ら判断する能力を高めるカリキュラムを紹介する。	小中学校教員・野外環境教育指導者・科学教育指導者	10月5日～6日	新規	理科離れや数学嫌いを解消するために有効なプログラム習得の機会を提供する。	27/30	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表7 青年教育指導者、施設職員を対象にした研修事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
赤城	青少年指導者のためのカウンセリングセミナー～青少年の心を拓くために～	複雑化する社会環境の中で育つ青少年の心をとらえる方法やそのための心構えについて、心理学的な理論やワークショップの実習を通して青少年指導者の技術向上を図る。	教員 青少年教育 団体指導者	10月12日～14日	新規	多様な問題を抱える青少年の指導を担当する指導者のニーズに対応し、カウンセリングの技術向上の機会を提供する。	31/50	96%	
	全国教育系ワークショップフォーラム	全国のような指導者を対象に、「ワークショップ」という新しい教育的な手法について、その成果や活用法を環境教育・野外教育・福祉教育・企業教育等における優れたワークショップの主催者から体験的に学ぶ。	教員・青少年 団体指導者・青少年 教育施設職員及びワーク ショップに関心のあ る者	11月2日～4日	新規	ここ数年様々な分野でワークショップ形式のプログラムが展開され効果を収めているが、十分認知されているとは言い難い。優れたワークショップを体験することで、新たな教育手法を教育現場に展開し、青少年の健全育成に貢献する。	157/150	99%	
	関東甲信越静地区青年の家職員研修会	関東甲信越静地区青年の家職員を対象に、事業及び利用の活性化を図るため、特色ある実技研修、また、相互に情報交換を行うことにより、これからの青年の家の運営や事業の在り方を考える。	関東甲信越 静地区青年 の家職員及 び関係者	11月14日～15日	継続	国立・公立各青年の家職員が一同に会し、研修及び情報交換の機会を提供することで、青年教育施設の教育力向上に資する。	51/100	100%	共催 関東甲信越静地区青年の家協議会
	体験学習法習得セミナー～「総合的な学習の時間」で悩んだら・・・～	「総合的な学習の時間」に取り組む教員を対象に、参加型教育プログラムの作成に役立つよう実習を通して体験学習法を学ぶ。	小中学校教員・高等学校教員	12月21日～22日	新規	「総合的な学習の時間」の内容に苦慮する学校現場のニーズに対応して、新たなプログラム作成に活用できる体験学習法を習得する機会を提供する。	21/30	100%	共催 群馬県教育委員会
	自然体験活動ジュニアリーダー養成パイロット事業	環境教育・環境学習を推進するためには、自然体験活動の場や機会を提供する体制を整えることが重要であるが、我が国においてこの分野での施設整備やプログラム開発、人材養成などの基盤整備が立ち遅れている。中でも、ジュニアリーダーの育成が緊急の課題である。本事業は、系統的、総合的な自然体験活動のジュニアリーダー育成システムを整備し、自然体験活動を軸とした環境教育・環境学習の普及を図るものである。	自然体験活動を実践している高校生	12月26日～28日	新規	自然体験活動推進協議会が提唱するCONEリーダー養成カリキュラムをベースとして、ジュニアリーダー養成カリキュラムを策定し、これをパイロット事業として実施し、ジュニアリーダーの養成カリキュラムとして十分なものができるかを検証する。	29/30	93%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表7 青年教育指導者、施設職員を対象にした研修事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日（期間）	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
赤城	青少年野外教育 企画セミナー・ ファシリテー ション研修	民間の野外教育事業者との連 携により、野外教育の企画等 に携わる専門的指導者を養成 するための研修事業を実施 し、専門的能力を持った指導 者を確保することによって、 我が国における野外教育の資 質向上を図る。	本セミナー のアクティ ビティ・デ ザインを修 了または、 修了見込み の者	1月21日～24日	新規	現在、双方向の新しい教育手法としてワーク ショップが盛んに行われてきている。そのワー クショップを効果的に運営するファシリテー ターの育成を支援する。	30/37	100%	
能登	高等学校部活動 指導者講習会 ～バスケット ボール編～	高等学校において部活動を指 導する教員の専門的指導力の 向上を図る。	高等学校 バスケット ボール部 顧問	8月26日～27日	継続	高等学校バスケットボール部の指導者が集い、 研修及び情報交換の機会を提供することを通し て、指導者の資質や技術を高める。また、青年 の家の利用促進を促す。	215/150	90%	共催 石川県高等学校 体育連盟バス ケットボール部
	野外教育指導者 研修会	野外活動に必要な知識や技能 をアクティビティ体験を通し て修得し、指導者としての技 能を高める。	野外教育の 指導者及び 野外教育に 関心のある 者	10月25日～27日	継続	野外教育指導者を養成することは国立青年の家の 使命であり、今後の施設活用を促進し、青少 年の体験学習の推進に寄与する。	20/30	100%	
能登 乗鞍	青少年教育施設 職員研修	国公立青少年教育施設職員が 一同に会し、青少年教育施設 でのボランティアの養成、プ ログラムの開発及び事業運営 の展開事例について研究協 議・情報交換を行い、施設職 員としての資質の向上と相互 の交流を図る。	国公立青少 年教育施設 職員	12月10日～12日	継続	国公立青少年教育施設のネットワークを築き、 施設職員としての資質向上を図る。また、各施 設の情報交換や研究協議の機会を創出し、施設 全体でのサービス向上等に取り組むきっかけと する。	20/20	100%	共催 国立乗鞍青年の 家 共催 国立能登青年の 家

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表7 青年教育指導者、施設職員を対象にした研修事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日（期間）	新規継続の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
乗鞍	青少年教育施設 指導者 養成セミナー 第1回	ボランティア活動の意義や青少年教育施設に求められる事業展開の在り方について理解を深めるとともに、当施設ならではの野外活動体験や青少年の指導を通してより多くの施設で活躍できる指導者を養成する。	青年 高山市セカンドスクール参加 小学校教員	8月6日～8日	継続	青年は、自然や人との関わりを求めており、事業への参加を通して感性を養い、自己形成を支援する。14年度は、野外教育指導者の公的資格を得られるようなカリキュラムを整備し、指導者の資質向上を目指す。	42/30	100%	
	第2回①		青年	9月23日～28日	継続	第2回は、高山市内小学校のセカンドスクールとリンクして実施している。参加学生にとって小学校児童のリーダーとしてのふれあいが、将来教員や野外教育指導者を目指すための資質向上を図る。	60/20	100%	
	第2回②		青年	10月7日～12日	継続	この養成事業（第1回～第3回）修了者が学校週5日制事業で企画・運営に加わったり、4施設のボランティアフォローアップ研修に参加し成果を出している。さらに、ボランティアの意義を伝え、青年の育成に貢献する。	33/20	100%	
	第3回		青年	2月28日 ～3月2日	継続	冬季に活動できる指導者を養成するとともに、障害をもつ人々も参加できる野外活動の展開に貢献する。	32/20	100%	
	自然と語ろう自然体験指導者研修会 夏の乗鞍	活動の体験、リスクマネジメントの講習やアクティビティの選択、構成、運営などのプログラム相談等を受けることで、青少年団体指導者が、より安全でより効果的な体験活動を実施できる手法を身につける手伝いをする。	夏季野外活動を計画している利用団体の代表者又は体験活動等の指導者（初級程度）	5月13日～15日	継続	施設利用予定団体の事前打合せと、同宿団体の相互理解・指導者として効果ある自然体験活動を実施するための知識の取得を支援する。	46/40	100%	
	冬の乗鞍	冬季の野外活動を効果的に運営するための施設の利用方法や指導法を研修する。また、冬季の野外活動における安全対策について協議し、危機管理能力を高めるきっかけとする。	冬季野外活動を計画している利用団体の代表者	12月3日～4日	継続	同宿団体同士がお互いの活動を理解し合うとともに、正しい安全管理の取り組み方法を学ぶことで、効果ある自然体験活動を再認識し、その手法を各職場で活用することで、青少年の体験活動推進に貢献する。	40/40	97%	
	生涯スポーツ スキー指導者 講習会	青少年及び地域のスポーツ指導者として必要な知識・技術・態度を学び、資質の向上を図る。	青少年及び地域のスキー指導者（2級程度以上）	1月23日～26日	継続	スキーというスポーツを通して、青少年に上達する喜びや、自然の素晴らしさを伝えることのできる指導者の育成に寄与する。	117/120	100%	共催 全日本スキー連盟

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表7 青年教育指導者、施設職員を対象にした研修事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
中央	青少年教育施設職員 ゼミナール	青少年教育施設職員が、これからの青少年教育施設の役割、あるべき姿について、新しい情報を入手しながら考え、今後の青少年教育施設の改善に資する機会とする。	国立・公立 青少年教育 施設職員等	12月17日～19日	継続	青少年層の減少や青少年が求める活動の多様化など青少年教育施設を取り巻く状況は大きく変わっている。そこで、青少年教育施設の改善・充実に資する機会を提供する。	41/30	100%	共催 (社)全国青年 の家協議会
	青少年野外教育 企画セミナー マネージメン ト研修	野外教育事業の企画運営に必要なマーケティングや人材確保・育成など、実際の・専門的な研修を実施し、専門的能力を持った野外教育指導者の養成を図る。	本セミナー のアクティ ビティーデ ザインを修 了又は、修 了見込みの 者	1月14日～17日	継続	平成9年度～13年度まで文部科学省が国立青少年教育施設と民間野外教育事業者の連携のもとに実施してきた青少年野外教育指導者研修事業の成果を継承し、専門的な能力をもった野外教育指導者の育成を支援する。	34/30	100%	主催 独立行政法人国 立青年の家
	地域子ども活動 リーダー講習会	子どもたちに体験を通し人間関係の中で心を豊かにさせるために、高校生・大学生・社会人を対象に地域の少年活動リーダー養成講座を開催する。	子ども活動 のリーダー を目指す 若者	4月,6月,10月, 1月の年4回	継続	現代の子どもたちは「人とのかかわる力」が不足しており、様々な社会的事件も多発している。そこで子供活動のリーダーとなる若者を育成し公共の精神を涵養する。	20/30	90%	共催 童親会
淡路	自然体験活動 指導者養成 セミナー	自然体験活動事業の企画・運営に必要な専門的知識、技術を習得する研修を通して、青少年指導者の資質の向上を図る。	青少年指導 者・教員及 び大学生	11月22日～24日	新規	学校、家庭及び地域社会における子どもたちの自然体験活動の推進や、自然体験活動の場を提供する指導者の養成を図る。	33/30	97%	
	大学生のための ボランティア 活動セミナー	ボランティア活動の理論と技術について学習する機会を提供し、大学生のボランティア活動の推進を図る。	大学生	9月21日～23日	継続	大学生のボランティア活動への取り組みの推進と、ボランティアコーディネーターの育成を図る。	28/30	100%	
	教員のための ボランティア 活動セミナー	学校におけるボランティア学習や「総合的な学習の時間」の推進を図るため、ボランティア学習の理論・実践事例について学習する機会を提供する。	教員及び教 員を志す 大学生・社 会人	12月7日～8日	継続	学校におけるボランティア活動の推進と教員のボランティアコーディネーターとしての能力を高める。	22/30	100%	
	国公立青年教育 施設職員研修会	施設職員にとって必要な知識・技術等の研修や情報交換を通して、施設職員の資質向上を図るとともに施設相互の連携を深める。	国公立社会 教育 施設職員	2月6日～7日	継続	施設職員の資質の向上と、施設相互の連携を図り、今後の施設の在り方を考える機会を提供する。	20/20	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表7 青年教育指導者、施設職員を対象にした研修事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
淡路	青少年教育施設 ボランティア コーディネー ターセミナー	青年教育におけるボランティ アの意義やコーディネーター としての役割を認識し、施設 ボランティア養成の企画づく りや情報交換を通して事業の 質の向上を図る。	国立青年の 家職員 (ボラン ティア 担当職員)	2月13日～15日	新規	青年の家職員がボランティアに関する知識と技 術を深め、今後施設が地域のボランティア活動 の拠点となるための基礎を作る。	27/26	100%	共催 国立青年の家本 部
三瓶	社会教育実習	関係大学との協力により、教 育課程の一環として青少年教 育施設で、教育実習や体験活 動を実施する。青少年教育及 びその施設の意義・役割の理 解を深めるとともに指導者に 必要な知識・技能を学び、単 位認定を行う。	大学生	6月29日 ～10月13日	継続	本事業は、大学からの要請もあるが、地域の社 会教育指導者の養成(人づくり)という意義も あり、社会教育に寄与する。	12/20	100%	
	野外活動 リーダー キャンプ	青年が持つ活力を生かしつ つ、ボランティア活動、体験 活動を通し青年の視野を広 げ、青年の生きる力の方向性 を探る。	高校生 大学生 青年	8月1日～3日	継続	違う世代の人と関わるのが苦手、指示がなけれ ば自分から行動しないなど、リーダー不在とも 言われる青年層の問題点が表面化している。青 年の持つ活力を活かし、実体験を通して広い視 野で物事を見たり、異世代との関わり方につい て学び、公共の精神を涵養する。	6/20	100%	
江田島	海洋スポーツ 指導者セミナー ① ②	カッター、カヌー、ウィンド サーフィンなど海洋スポーツ の振興と安全確保を図るた め、指導者として必要な知 識・技能について研修し、そ の資質の向上や施設・関係機 関との連携を図る。	海型の青少 年教育施設 職員・指導 員、海洋ス ポーツ指導 者及びそれ を志す者	①7月 6日 ～ 7日 ②8月31日 ～9月1日	新規	施設職員・指導員、海洋スポーツ指導者及びそ れを志す者を対象に研修事業を実施すること で、海洋スポーツの振興と安全確保に資する。	① 18/30 ② 17/30	100%	
大洲	ドラマティック カヌー -指導者養成編-	カヌースポーツ指導者として の知識・技術を修得すると同 時に、指導者としての資質の 向上を図る。	カヌース ポーツ指導 者を志す方 及びカヌー の指導的立 場にある健 康な方	6月29日～30日	継続	(社)日本カヌー連盟の公認施設となり、カ ヌーのインストラクター・ボランティアや県内 のカヌー愛好者の指導技術の向上やレスキュー 技術の向上を図る。	16/20	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表7 青年教育指導者、施設職員を対象にした研修事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
大洲	スポーツ実技 指導者研修会 -スポーツ クライミング編-	クライミングウォールを利用し、スポーツクライミングの基礎的・初歩的な知識や技能を習得するとともに、参加者相互の交流を図る。	高校生以上	8月31日 ～9月1日	継続	平成14年度より国体の正式種目となり、愛好者が増えつつあるスポーツクライミングの設備を所有している数少ない施設として、クライミング愛好者や指導的な立場にある人の研修の機会を提供する。	45/30	98%	
	スポーツ実技 指導者研修会 -バドミントン編-	スポーツ団体の指導者や選手等が、一流の選手・指導者から直接その種目の技術や練習法について学び、相互の交流・親睦を図る。	バドミントンの指導者及び選手	12月21日～22日	新規	バドミントンは、近年この地域でも競技人口が増加しており、生涯スポーツとしても幅広い年齢層に人気が高い。競技者のレベルアップと指導者の技術向上を図り、地域に貢献する。	89/100	100%	
	スポーツ実技 指導者研修会 -エアロビクス編-	エアロビクスダンスのインストラクター及びインストラクターを目指す方を対象にトップレベルの指導者を招き、「心と体の健康作り」をテーマとした魅力的なプログラム及びコンビネーションを紹介するとともに、インストラクターとしての資質向上及び相互の交流や親睦を図る。	エアロビクスダンスインストラクター及びインストラクターを目指す方	3月8日～9日	新規	地域のエアロビクスインストラクターの指導技術の更なるレベルアップを図り、地域教育力向上と受入事業の資質向上に資する。	19/20	100%	共催 愛媛県エアロビクス協会
	ドラマティック カヌー -パラカヌー編-	身障者と健常者が共に集い、カヌーを通して未知なるものへ挑戦し、達成の喜びを味わい、自然の中で相互の理解を深め、親睦を図る。	15歳以上の身障者でカヌー乗艇希望者及びボランティアを志す方	9月7日～8日	新規	バリアフリーの時代と言われ、身障者の社会参加の場が求められる今日、身障者でも気軽にカヌーや自然体験ができる環境や機会を提供する。また、青年の家の使命からも、ボランティアの育成を支援する。	60/50	100%	共催 大洲市カヌー協会
	第43回 全国青年の家 運営研究協議会	わが国の現在の青年の多くは、都市化・少子高齢化の進展等により、人間関係が希薄化し、青年の社会性・人間関係能力が育ちにくい環境になりつつあり、その結果様々な問題を投げかけている。このような背景を踏まえて「21世紀を生き抜くたくましい若人を育成する青年の家の在り方」をテーマに、各施設の諸問題の解決や施設間の連携を深めることを目指す。	全国青年の家協議会加盟の青年の家等職員	10月9日～10日	継続	現代社会において、たくましく生き抜く若人を育てることが青年の家の課題である。その社会的要請に応えるための研究協議を行い、青年の家職員としての資質向上と、運営の改善に資する。	163/200	96%	主催 社団法人全国青年の家協議会

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表7 青年教育指導者、施設職員を対象にした研修事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日（期間）	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
大洲	中国・四国地区 青年教育関係 施設職員研修会	青年教育関係施設の果たす今日の役割を確認し、今後施設職員として必要とされる、より実践的な知識や技術及び態度についての研修を行い、資質の向上を図るとともに、施設間の連携を深める。	中国・四国地区青年教育関係施設職員等	11月19日～21日	継続	青年教育施設職員として必要な知識・技術及び態度について実践的に研修し、資質の向上を図ることが求められており、施設間の連携や情報交換を推進する。	21/20	100%	共催 国立三瓶青年の家・国立江田島青年の家
	集団宿泊指導 担当者講習会	青年の家の教育機能や活動プログラムについての理解を深め、本施設をフィールドとした自然体験活動のより効果的な活動プログラムの計画・展開について研修する。	小・中学校、高等学校、高等専門学校等の集団宿泊指導担当者	11月25日～26日	継続	集団宿泊で利用する団体の指導者が、本施設の教育効果を理解し、より効果的な集団宿泊研修ができるよう支援する。	63/50	98%	
	青少年野外教育 企画セミナー アクティビティ デザイン研修	野外教育の企画等に携わる専門指導者を養成するための統一的な基準の基に研修事業を実施することにより、専門的能力を持った指導者を確保し、わが国における野外教育の質的向上を図る。	学校、教育委員会・青少年教育施設・民間団体等で2年以上の野外教育の指導あるいは企画の経験有する者・または、2年未満でも60日程度の指導あるいは企画の経験有する者	11月28日 ～12月1日	継続	野外教育の専門的能力を持った指導者を確保し、わが国における野外教育の推進を図る。	33/30	100%	
	教育相談に関する 研修会子ども たちのハートを つかめ！	教育相談に関わる教職員・施設職員等が、不登校状態にある児童・生徒、引きこもり青年及びその保護者の理解と対応の仕方について、教育学・心理学的見地から研修を行う。	教職員・不登校児対応施設職員・教員を志す学生・社会人等	1月11日～12日	継続	現在の教育が抱える諸問題を様々な視点から見つめ、新たな解決策を見出すため、教育相談に関する具体的な指導法や実践方法を、演習・実習を通して参加者自らが体験し、現場での実践に生かすことのできる研修会であり、参加者の学習要求や必要課題に対応する。	146/100	100%	共催 日本学校教育相談学会愛媛県支部

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表7 青年教育指導者、施設職員を対象にした研修事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
阿 蘇	キャンプボランティア実践講座Ⅰ キャンプボランティア実践講座Ⅱ ～A S Oわくわくキャンプ～	ボランティア活動の実践の場を提供し、その資質の向上を図るとともに、阿蘇の大自然を最大限に活用し、異年齢集団生活における体験活動を通して、「生きる力」の育成の一端を担うことを目的とする。	実践講座Ⅰ 青年及び成人(ボランティア) 実践講座Ⅱ 小学生・中学生(キャンパー)	①6月28日～30日 ②7月28日～8月4日	継続	ボランティアの企画参画型事業であり、ボランティアの育成、ボランティア活動の振興に寄与する。	61/50	100%	
	自然体験活動指導者養成講習会	自然体験活動推進協議会が実施する指導者養成事業を活用し、阿蘇の自然豊かなフィールドにおいて、実習を中心とした講習会を実施することで、自然体験活動の基礎的な知識と方法を理解するとともに、実際の指導ができる指導者の養成を目指す。	青年及び成人・社会教育関係者・教育委員会職員・教職員	10月12日～14日	継続	民間教育事業者との連携により、CONE(自然体験活動推進協議会)の資格を付与する指導者養成事業として、地域の自然体験活動の推進に寄与する。	38/30	100%	共催 野外教育研究所
	利用団体担当者研修	利用団体の指導担当者を対象に、当青年の家教育機能や活動プログラムの紹介及びその利用の仕方についての研修を深めることにより、宿泊研修の効果を高める。	平成15年度に集団宿泊利用を希望する団体の担当者	11月7日～8日	継続	施設の利用促進と利用調整を併せて行い、効果的な施設利用に寄与する。また、青年団体指導者を対象に当施設の活動プログラムを普及するなど、効果的な施設利用を促進する。	70/50	96%	
	九州地区青少年教育施設関係職員研修	青少年の社会教育活動を振興するために必要な専門的知識及び指導技術等について研修し、職員としての力量を高めるとともに、青少年教育関係者と関係機関との連携に努める。	青少年教育施設関係職員	12月5日～6日	継続	「総合的な学習の時間」の青少年教育施設の役割をテーマに、施設職員の専門的知識や指導技術等の研修を行い、九州地区の青少年教育施設の質の向上を目指す。	82/50	97%	共催 九州地区青年の家協議会
	九州環境教育ミーティング in 阿蘇	環境教育、環境保全及び地域づくり等に関心のある者が集い、人と環境の関わりや、地域の自然環境を見つめ直すことで、身近なところから環境教育に取り組む態度を育成する。また、環境教育に取り組む個人や団体のネットワークを深める。	青年及び成人	3月1日～2日	新規	7回目の開催となる九州環境教育ミーティングを当施設が主催することにより、九州の環境教育を更に推進するとともに、当施設の環境教育充実の機会とする。	184/120	98%	共催 九州環境教育ミーティング実行委員会・社団法人日本環境教育フォーラム

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表7 青年教育指導者、施設職員を対象にした研修事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日（期間）	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
沖縄	わんぱく キャンプ	青年リーダー育成事業として青少年を対象としたキャンプを実施し、異年齢間の交流を深めるとともに、青年の自主性及びリーダー性を育成する。	小・中学生 と高校生・ 学生・社会 人	6月8日～9日	継続	ボランティアが企画運営を通して異年齢集団をリードし、たくましさを身につけることを支援する。	96/70	100%	
沖縄	スノーケリング 指導者認定 講習会	スノーケリングを中心とした水辺活動を体験し、その特性と安全な活用方法について理解を深める。また、有効な指導方法および環境との関わりについて認識を深める。	高校生以上 マリンス ポーツ 関係者	6月28日～30日	継続	他施設にはない海の特性を生かし、安全使用が課題となっているスノーケリングの発展普及のために力量を備えた指導者を養成する。	50/30	95%	
	野外活動指導者 のつどい	青少年教育施設職員や野外活動関係者等にとって必要な知識・技術等についての研修や情報交換を行い、資質を高め、関係機関・団体等との連携を図る。	青少年教育 施設職員・ 社会教育行 政担当者・ 野外活動指 導者等	12月13日～15日	継続	野外活動指導者が日常の活動について情報交換を行い、かつ新しいプログラムその他について理解を深める機会を提供する。	46/30	93%	
	青年交流 セミナー	各地域の青年や留学生がつどい、互いのコミュニケーションを深め、ネットワーク作りを促進するとともに、地域の活性化を図る。	高校生・学 生・社会人	2月8日～9日	継続	地域で活動している若者に対し、その成果と課題を話し合う中で今後の青年活動の発展と互いの親睦を図る。	69/50	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表8 ボランティアを対象にした研修事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日（期間）	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
大雪	大雪ボランティアセミナー	青少年教育施設におけるボランティア活動についての基本的な考え方や知識について理解を深めるとともに、実技や演習を通して、実践のための資質を身につける機会とする。	高校生 学生 一般	4月27日～29日	継続	活動発表やワークショップを通して、ボランティアとしてのスキルアップを図り、情報交換や交流を通して活動意欲を高め、ボランティア活動を促進する。	59/50	100%	
	施設ボランティア活動推進事業 ①わんぱくサイエンス広場 ②わんぱくスイミング教室 ③わんぱくスノーランド	事業の企画から運営まで、実践的な活動を通して、施設ボランティアとしての資質の向上を図る機会とする。	施設ボランティア活動 をしている 大学生 小学校5・6年生	① 9月14日～16日 ②11月16日～17日 ③ 1月18日～19日	継続	施設としてボランティア活動の場と機会を提供し、自発的活動を支援していくことは重要である。加えて、学校週5日制に対応し、子どもたちに様々な生活体験・自然体験の場の提供する。	① 96/60 ② 82/60 ③ 73/60	① 96% ② 99% ③ 100%	
岩手山	ボランティアスタッフセミナー	ボランティア活動の基本を理解するとともに、岩手山青年の家のボランティアスタッフとしての活動を通して社会貢献についての意義を学ぶ。	大学生 勤労青年	①5月18日～19日 ②2月22日～23日	継続	青年の家で施設ボランティアを養成し、主催事業や受入れ事業において積極的に活動してもらい、その活動を通して社会貢献についての意義を学び、公共の精神を涵養する。	30/30	100%	
	東北地区ユースボランティアのつどい	東北地区の青少年教育施設ボランティアが一同に会し、活動実践等について情報交換を行い、ボランティアとしての資質を高める。	東北地区青少年教育施設ボランティア	11月22日～24日	継続	東北地区の青少年教育施設のボランティアが一同に会する機会を設定し、広域的なボランティアのネットワークを構築する。	48/30	100%	
	インストラクターセミナー	指導員及びボランティアとしての役割について理解を深めるとともに、指導者としての資質を高める。	国立岩手山青年の家指導員登録希望者、国立岩手山青年の家登録ボランティア	4月28日 6月1日～2日 12月20日	継続	国立岩手山青年の家の指導員として、利用者に対して常に効果的な指導を行うことができるように、ボランティアの資質向上に寄与する。	48/90	100%	
磐梯	自然体験活動ボランティアセミナー	自然体験活動についての講義や実習を通して、社会に貢献できるボランティアとしての資質を養う。	高校・大学等に学ぶ生徒・学生	4月27日～29日	新規	自分が価値ある大切な存在であることを実感できるボランティア活動の振興を、自然体験活動を通して図る。	32/40	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表8 ボランティアを対象にした研修事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
磐梯	親子ふれあい 夏体験	自然の中で、親子で協力して活動する体験を通して、親子のふれあいを深める。親子ふれあい活動の企画・運営を通して、青年のボランティアとして資質を高める。	小中学生と保護者,自然体験活動ボランティアセミナー受講者	7月13日～14日	継続	ボランティアがこの主催を企画・運営することで、ボランティアの各種能力の進展を図るとともに、自己形成を促進する。	71/90	100%	
	研修指導員 セミナー	施設の利用方法、安全管理、指導分野の研修を通して、研修指導員の資質・指導力の向上を図る。	磐梯青年の家研修指導員	4月17日	新規	利用団体のニーズに則した指導を行うため、利用団体の活動を支援する研修指導員の資質・指導力向上を図る。	32/50	100%	
赤城	あかぎボランティア・ステップアップ研修	当青年の家及び公立施設ボランティアの中から核となって活動できる人材育成を図るため、指導者としての資質向上を目指す研修を行う。	公立青年の家・少年自然の家の施設ボランティア, その他	①5月11日～12日 ②1月18日～19日	継続	青少年教育施設におけるボランティアが、活動プログラムの指導技術や指導力を身につけ、指導者としての具体的な資質向上を支援する。	① 17/30 ② 23/30	①② 100%	
	あかぎ ボランティア セミナー	ボランティア活動に必要な基本的知識や野外活動・創作活動等の知識技能を習得させ、施設ボランティアとしての能力を身につける。	①高校生 ②社会人 大学生 短期大学生 専門学校生	①6月 1日～ 2日 ②6月29日～30日	継続	現代的課題として、青年の社会参画があげられる。青年がボランティアという立場・視点から社会を見つめ、自分・他者との協働の中で「主体的に」社会と関わることや「見えない自分」を見出し、アイデンティティの確立や自尊心を育むことによって、社会を見つめる感性を伸ばすことが可能である。このボランティアセミナーは、社会参画への導入となり、青年の健全育成を支援する。	① 72/50 ② 51/50	①② 96%	
	ボランティア・プロジェクト	ボランティアが、自主的にかつ自由に企画することにより、種々の事業を実施し自らの資質と技術の向上を目指す。	公立青年の家・少年自然の家の施設ボランティア・その他	12月14日～15日	新規	施設ボランティアの意識と資質を向上することで、受入れ事業の質的向上とボランティア同士のネットワーク構築に寄与する。	13/20	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表8 ボランティアを対象にした研修事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
能登	集い語ろうボランティアフォー ローアップ セミナー ー4施設ボランティアネットワーク事業ー	施設ボランティアが集い、青少年の野外活動を援助・指導するための方法や理論について実習・協議するとともに、ネットワーク化を図る。	3施設(乗鞍・能登・立山・若狭湾)施設ボランティア	11月15日～17日	継続	近隣4施設(国立青少年教育)における施設ボランティアの資質の向上と交流を通して、4施設のボランティアネットワークを構築する。	18/30	100%	共催 国立乗鞍青年の家・国立立山少年自然の家・国立若狭湾少年自然の家
乗鞍		近隣施設で活躍する施設ボランティアが集い、青少年の野外活動を援助・指導するための方法や理論について実習・協議するとともに、施設ボランティア相互の交流を深め、ネットワーク化を図る。				国立青少年教育施設(乗鞍・立山・能登・若狭湾)4施設のネットワーク事業であり、各施設持ち回りの事業で実施開始2年目である。当初の計画では、あと3年実施の予定である。ボランティアのスキルアップ・ネットワーク構築を支援する。			
中央	ボランティア講座《基礎》	ボランティア活動を通して社会貢献や自己実現をしたいと考えている青年に基礎的な理論・技能を学習する機会を提供し、ボランティアとしての活動を支援する。	15歳～30歳	5月3日～5日	継続	ボランティアへの青年の関心は高いが、考え方やとらえ方に差がある。基本的な理論や技能を学ぶ場を提供し、ボランティアの裾野を広める。	54/30	91%	
	ボランティア講座《実践》	ボランティア講座《基礎》の受講者が、主催事業「ノビノビホリデー」に参加することでボランティアとしての技能を修得し、社会貢献や自己実現の意欲を高める。	ボランティア講座《基礎》の受講者	① 5月25日～26日 ② 9月14日～15日 ③11月 2日～ 3日 ④12月 7日～ 8日	継続	ボランティア講座《基礎》で基本的な学習を終えた青年が体験的に事業運営に関わることで、学びや気づきを深める。	26/40	100%	
	ボランティアスキルアップ研修	ボランティア同志の交流を通して、他の施設のボランティアの活動を知るとともに自分たちの活動を見つめ直し、新しい活動へのステップアップとする。	ボランティア講座の修了者	3月22日～23日	継続	施設ボランティアの研修機会を保証し、青年の家としての考え方や方針の徹底を図る。また、継続的活動となるようにフォロー体制を構築する。	23/20	88%	
淡路	うずしおリーダー養成セミナー	障害者キャンプの意義や運営方法、リスクマネジメントの基礎を学び、障害を持つ子どもたちのためのキャンプリーダーを養成する。	大学生 専門学校生 社会人	6月29日～30日	新規	障害者キャンプを実施するにあっては様々な配慮が必要であり、リーダーの認識を一層深める。	33/30	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表8 ボランティアを対象にした研修事業

施設名	事業名	趣 旨	対 象	期日(期間)	新規 継続 の別	事業実施の必要性	参加人数 /募集人数	満足度	共催等
三瓶	社会教育施設 ボランティア養成講座	社会教育施設ボランティアの意義や役割、活動方法等を体験的に学習し、ボランティア活動への参加を促す。	大 学 生	①6月 1日～ 3日 ②6月14日～16日	継続	ボランティア活動は、「自分」と「社会」との関係を考える大切な領域である。また、社会教育施設におけるボランティア活動の支援・推進の重要性から、施設の主催事業及び一般受入れ事業において、現代的課題や生涯学習時代に対応した活動を通して、社会参加の経験を積み、更には指導体制の充実を図る。	32/30	100%	
江田島	青年ボランティア研修会 ①養成研修会 ②国内派遣研修 ③報告会	国立江田島青年の家で施設ボランティアとして活動を実践する青年を育成し、継続的な活動の場を提供し、青年の社会参加を促す。さらに、全国の国立青少年教育施設等で実施される事業に派遣し、報告会を実施してその成果を共有することにより、資質の向上を図る。	青年	①9月21日～22日 ② 10月 ～ 2月 ③3月 1日～ 2日	継続	青年が自発的に社会に関わろうとする意欲を育むために、ボランティアとしての学習の機会や実践の場を提供するために実施する。	① 17/20 ② 10/10 ③ 31/30	①② 100% ③ 96%	
阿蘇	キャンプボランティア養成講座 ～キャンピングストラクター資格取得～	青年教育施設において、ボランティア活動を行うために必要な知識・技術を習得する。さらに個人が持っている資格、特技、趣味、専門的知識・技術を生かすための活動の場及び機会を提供する。	青年及び 成人	5月3日～5日	継続	キャンピングストラクター資格取得カリキュラム研修を通して、高度な知識を備えた体験活動指導者の養成と、施設ボランティアの確保を目指す。	76/50	100%	
	ボランティアサミット	青少年教育施設及び学校等で活躍するボランティアが一同に会し、研修や情報交換を実施する中で、ボランティアネットワークを構築するとともに、お互いのより一層の資質向上を図る。	青年及び 成人	2月22日～23日	継続	ボランティア活動を促進するとともに、新たに登録をした者に対するフォローアップ研修であり、施設ボランティアの資質向上を支援する。	70/50	97%	
沖縄	ボランティア活動セミナー	ボランティア活動に必要な知識・技術を学び、自ら実践する態度を育成し、社会の一員としてのボランティア活動の支援に資する。	高校生 学生 社会人	4月27日～29日	新規	社会的ニーズの高いボランティア活動についてその意義と活動の実際について理解を深める。実践力を養ったボランティアの社会参画推進に寄与する。	55/30	100%	

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表9 新規プログラム開発事業

施設名	事業名	趣 旨	事業実施の必要性	新規・継続の別	成 果	普 及 方 法	対 象
大雪	高等学校・施設連携研究協議会	青年の家を活用した高校生の学習活動について、新教育課程及び学校週5日制への対応の観点から研究協議を行う。	高校生の施設利用や学習活動について、高等学校との連携を図りながら、提供プログラムの充実と高校生の学びの場の拡大について協議していく必要がある。	継続	学校週5日制に対応した高校生の受入れ事業の拡大方策について、協議会を設置して協議を行い、次のモデル事業2本を企画し、平成15年度に実施予定。①学校週5日制対応日帰り型モデル事業②インターンシップ型モデル事業	①平成14年度事業報告書「ヌタクカウシュベ」を作成。(1,200部)②モデル2事業について、事業成果を報告書にまとめ、公立青少年教育施設及び道内高等学校に送付予定。	学識経験者 教育行政代表 高等学校代表 教育関係団体代表 青少年教育施設代表
	主催事業プログラム研究会	国立大雪青年の家の平成14年度主催事業実施結果及び平成15年度主催事業計画についての研究協議を通して、主催事業の企画・運営・評価について学習するとともに、公立青少年教育施設へ普及する機会とする。	地域の中核施設として、主催事業の開発とその普及について、先導的な役割を果たしていく必要がある。	新規	①平成14年度主催事業実施結果の評価・分析の協議から、公立青年の家へ主催事業の普及を図る機会とすることができた。②平成15年度主催事業計画案の協議から、主催事業プログラム開発に関わる方向性を見出すことができた。	①平成14年度事業報告書「ヌタクカウシュベ」を作成。(1,200部)②道立青少年教育施設全事業課長の参加により、主催事業プログラムの普及を図る機会となった。	北海道内青少年教育施設職員
	ゆーすびあ大雪ニューイベントプラン開発事業	新規主催事業の開発企画プロジェクトチームを設け、新規事業を開発・実施し、その成果を公立青年の家へ普及させる。	近年、ますます利用者の学習要求（ニーズ）が多様化・高度化する中、青年の家の活動の充実を図るため、プログラムの開発・実施・普及に努める必要がある。	継続	事業課内プロジェクトを立ち上げ、所内で新規主催事業プログラムの開発を行い、次の2事業を企画。①「天体観望会in大雪」②「高校生生徒会サミット」	①平成15年度事業報告書「ヌタクカウシュベ」に掲載し普及予定。②事業成果を報告書にまとめ、公立青少年教育施設及び道内高等学校、連携協力した関係機関に送付予定。	課内プロジェクトチーム→所内検討会議→施設業務運営委員→主催事業プログラム研究会
能登	セカンドスクール中学校	生活の拠点を青年の家に移し、共同生活を通して自主性を高め、社会性や協調性を培う。	生活体験不足から自分の身の回りのことができない生徒が多い中、集団生活を通して自主性を高め、協調性や社会性を培う必要がある。	継続	参加者が自主的に活動し、職員は後方支援にとどめたことにより、共同生活においては認識不足による行動が参加者全体に影響することを、身をもって経験することとなった。その結果として参加者の自主性、社会性や協調性が高まった。	①広報誌(3,000部)に掲載し、各種学校・教育委員会・青少年教育施設などに送付。②主催事業報告書(200部)に記載し、教育委員会・青少年教育施設などに送付。③事業報告書作成(20部)。④石川県社会教育コーディネーター研修で発表報告。⑤全国青年の家協議会で報告。	羽咋市立 邑知中学校 羽咋中学校

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表9 新規プログラム開発事業

施設名	事業名	趣 旨	事業実施の必要性	新規・継続の別	成 果	普及方法	対 象
能登	セカンドスクール小学校	道徳・各教科・総合的な学習の時間・特別活動等に生かせるプログラムを共同開発し、学校の教育活動における社会教育機能の利用促進を図る。	地元教育長の要望もあり、今後更なる学社融合体験型アクティビティプログラムを研究開発する必要がある。	継続	協力校と協議を重ね、学校の教育課程と青年の家の特性を照らし合わせ、相応しいアクティビティを取捨選択、新規導入した上で、ねらいを明確にしたプログラムの作成と指導を展開し、充実した活動とすることができた。	①広報誌（3,000部）に掲載し、各種学校・教育委員会・青少年教育施設などに送付。②主催事業報告書（200部）に記載し、教育委員会・青少年教育施設などに送付。③事業報告書作成（21部）。④石川県社会教育コーディネーター研修で発表報告。⑤全国青年の家協議会で報告。	羽咋市立西北台小学校
	セカンドスクール高等学校	生活の拠点を青年の家に移し、共同生活を通して自主性を高め、社会性や協調性を培う。	核家族化や少子化による自己中心性を打破し、共同宿泊生活を通じて自主性・社会性・協調性を培うための調査研究を推進する必要がある。	新規	普段学校でしか顔を合わせることもない仲間と、生活を共にすることで、友人の新たな一面を見つけたり、講師からの講演を受けて、将来を語り合ったりしたことで、今後の学校生活についての目標設定の場となった。	①広報誌（3,000部）に掲載し、各種学校・教育委員会・青少年教育施設などに送付。②主催事業報告書（200部）に記載し、教育委員会・青少年教育施設などに送付。③事業報告書作成（20部）。	石川県立羽咋工業高等学校
乗鞍	指導者養成セミナーのカリキュラム開発	青少年教育施設を中核として、青少年の健全育成に関わる青年教育指導者を養成することを目的として、教育関係機関との連携を図り、指導的な役割を担う学識者や教育経験者の助言を得て、養成セミナーのカリキュラムを様々な角度から検討し、カリキュラム修正を行う。	大学や小学校の関係者が集い、平成10年度以来青少年教育施設指導者養成セミナーのカリキュラムの作成と修正を年度ごとに行ってきた。指導者養成とボランティア養成の両面から、体系的なカリキュラム及び内容についての検討を継続する必要がある。	継続	①青年リーダー養成を野外教育指導者や施設ボランティアに絞らず、自然体験活動に従事しながらボランティア活動のできる人材養成と捉えてセカンドスクールとリンクして実施した結果、参加学生の参加動機は様々であったが、終わって帰るときには学生に大きな変容が現れ、学校週5日制対応事業で企画に加わる学生が増えている。②現職教員の研修の場として、セカンドスクールとリンクした第1回のセミナーにカリキュラムを組み入れた結果、現職教員と青年リーダーとなる学生との交流が図られ、第2回のセカンドスクールに高い効果が現れた。	①中間報告としての研究報告書を作成。②各教育委員会、各青少年教育施設、大学等へ送付予定。③大学教育におけるカリキュラムへの組み入れについて、その成果を発信。	少年・青年

独立行政法人国立青年の家 平成14年度主催事業一覧

表10 調査研究事業

施設名	事業名	趣 旨	事業実施の必要性	新規・継続の別	成 果	普 及 方 法	対 象
磐梯	受入れ事業の評価に関する調査研究	受入れプログラムの調査・分析・評価を行い、教育効果の高い受入れプログラムを開発することを通して、青年の家の教育機能を高める。	受入れ事業の教育的効果を明らかにすることを通して、国立青年の家の存在意義を明確にし、新たなプログラムを開発することが必要である。	新規	第1報として中学校・高等学校の冬期集団宿泊学習（スキー学習）が、参加者の「自然に対する理解」「自律心」「社会性・協調性」「向上心」の向上に高い効果があることが明らかになった。	①現在、調査研究報告を作成中。②所報（1,000部発行）に掲載し、近隣各教育委員会・学校・公立施設等に送付予定。③独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要「青少年フォーラム」に論文投稿予定。	中学生～高校生
乗鞍	小・中・高校生のボランティア等の在り方に関する調査研究	岐阜県飛騨地方の風土に根付いた題材を基に、地域を守り発展させているボランティアの活動を、小・中・高校生が実際に行うことを通して、思いやりの心を豊かにし自分の大切さを知るとともに社会参加の気持ちを高める。	小・中・高校生のボランティアの在り方について研究し、ボランティア活動の推進を図る必要がある。	継続	①地域の小・中・高校生から幅広く関心が寄せられ、地域の風土に根ざしたボランティア体験を行うことを通して、ボランティア活動の多様性を理解することができた。②効果を客観的に測定し、今後のプログラム開発に役立てることができた。③小・中・高校生が共に活動する中で、関心や適性に応じて取り組むボランティア活動があることが明らかになった。④活動の意味をわかちあうことによって、各自が自己表現力を向上させることができた。⑤地域の他施設との連携を図り、将来性あるプログラムを開発することができた。	①国立オリンピック記念青少年総合センターと「青少年のボランティア学習プログラムの在り方に関する調査研究報告書」（1,500部）をまとめ、全国の関係機関にその成果を報告。主な配布先は、文部科学省、国立教育機関、国公立青少年教育施設、都道府県教育委員会、中青連加盟団体等。その他、国立オリンピック記念青少年総合センターHPに全文掲載予定。②平成15年度の乗鞍青年の家主催事業として「ぼちぼちやらまいかボランティア」を小・中・高校生を対象に年間2回実施し、その成果を発信。	小学5年生～高校生
沖縄	いきいき 自然体験 キャンプ	心因性の不登校児童・生徒を対象に自然体験や集団生活等を体験させることにより、社会的な適応を支援する。	不登校児童・生徒に対して自然体験の感動と他者との協力でものごとを成し遂げる素晴らしさを体験させる事業で、児童・生徒の自立のきっかけとして効果について研究する必要がある。	継続	心因性不登校児童・生徒にとって、心を開き、癒される機会となり、他者と信頼しあえる有意義な体験となった。キャンプを通して活力を得るとともに、不登校解消につながるきっかけをつかむことができた児童・生徒も多く見られた。	①調査研究報告書（1,000部）を作成し、県内各適応指導教室並びに小・中・高等学校に配布し、不登校対策の参考資料とする予定。②調査・研究に関心の高い大学等へ送付予定。	